

講 義 要 旨

2 0 2 6 年 度

ア ル ウ ィ ン 学 園

玉 成 保 育 専 門 学 校

講義要旨目次

1.	キリスト教概説	1年(前)	1
2.	憲法	1年(後)	2
3.	時事問題	2年(前)	3
4.	生活科学	1年(前)	4
5.	情報機器の活用	1年(前・後)	5
6.	文章表現	1年(前・後)	6
7.	英語コミュニケーション	1年(前・後)	7
8.	保健体育 I	1年(前)	8
9.	保健体育 II	1年(後)	9
10.	幼児と健康	2年(後)	10
11.	幼児と環境	1年(前)	11
12.	幼児と言葉	1年(前)	12
13.	幼児と表現 A	1年(後)	13
14.	幼児と表現 B	2年(後)	14
15.	幼児と音楽 A	1年(前・後)	15
16.	幼児と音楽 B	2年(前)	16
17.	保育原理	1年(前)	17
18.	教育原理	1年(後)	18
19.	子ども家庭福祉	1年(前)	19
20.	社会福祉	1年(前)	20
21.	子ども家庭支援論	2年(前)	21
22.	社会的養護 I	1年(前)	22
23.	教職概論	2年(前)	23
24.	教育保育社会学	2年(前)	24
25.	保育者論	2年(前)	25
26.	モンテッソーリ教育概論	1年(後)	26
27.	フレール教育概論	1年(前)	27
28.	キリスト教保育	2年(前)	28
29.	保育の心理学	1年(前)	29
30.	臨床心理学	2年(前)	30
31.	子ども家庭支援の心理学	1年(後)	31
32.	子どもの理解と援助	1年(後)	32
33.	子どもの保健	2年(前)	33
34.	子どもの食と栄養	2年(前・後)	34

35.	保 育 の 計 画 と 評 価	2年(前)	35
36.	保 育 内 容 総 論	2年(前)	36
37.	健 康 指 導 法	2年(前)	37
38.	人 間 関 係 指 導 法	1年(後)	38
39.	環 境 指 導 法	1年(後)	39
40.	言 葉 指 導 法	1年(後)	40
41.	表 現 指 導 法	1年(後)	41
42.	表 現 活 動 指 導 法 A	2年(前)	42
43.	表 現 活 動 指 導 法 B	2年(後)	43
44.	音 楽 I (理 論)	1年(前)	44
45.	音 楽 II (声 楽)	1年(後)	45
46.	保 育 教 材 研 究 A	2年(前)	46
47.	保 育 教 材 研 究 B	1年(後)	47
48.	保 育 教 材 研 究 C	1年(前)	48
49.	乳 児 保 育 I	2年(前)	49
50.	乳 児 保 育 II	2年(後)	50
51.	子 ど も の 健 康 と 安 全	2年(後)	51
52.	障 害 児 保 育	2年(前・後)	52
53.	特別支援教育の理解と支援	2年(後)	53
54.	社 会 的 養 護 II	2年(後)	54
55.	子 育 て 支 援	2年(後)	55
56.	教 育 相 談	2年(後)	56
57.	保 育 実 習 I a	1年(後)	57
58.	保 育 実 習 I b	1年(後)	58
59.	保 育 実 習 指 導 I a I b	1年(後)	59
60.	保 育 実 習 II	2年(後)	60
61.	保 育 実 習 III	2年(前)	61
62.	保 育 実 習 指 導 II III	2年(前・後)	62
63.	教 育 実 習 I	1年(後)	63
64.	教 育 実 習 指 導 I	1年(前・後)	64
65.	教 育 実 習 II	2年(前)	65
66.	教 育 実 習 指 導 II	2年(前)	66
67.	教 育 保 育 実 践 演 習	2年(後)	67

科目名	キリスト教概説	授業形式	講義
教員名	友野富美子	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	キリスト教概説		
授業の概要	キリスト教とはどのような宗教か概観するとともに、聖書の人間観や信じる生き方について考えを深める。賛美歌や絵本、映画などにも触れながら、キリスト教が私たちに伝えていることを学び、自分の言葉で聖書の教えを表現してみる。		
授業の到達目標 (ねらい)	聖書に親しむこと、キリスト教に触れることは、人間とはどのような存在なのか、自分とはあるいは他者とはどんなに大切な存在なのかを知ることに通じる。目の前の幼児を「かけがえのない隣人」とするまなざしを聖書の言葉から読み取り、学校の教育目標である「地の塩」「世の光」となるとはどのようなことかを知る。		
授業計画	1. オリエンテーション～聖書、賛美 2. 旧約聖書～世界はどうつくられた？ 創世記 カルトとは？ 3. 旧約聖書——いのち、性、いっしょに生きる 4. 旧約聖書～自由に生きる～出エジプト 5. 旧約聖書～プリンス・オブ・エジプト 6. 旧約聖書～プリンス・オブ・エジプトを自分の言葉で表現する 7. 発表 8. 新約聖書～イエスの生涯 クリスマス、「主の祈り」 9. 新約聖書～クリスマス物語を自分の言葉で表現する 10. 発表 11. 新約聖書～イエスの生涯 教え・癒し・共食、十字架、復活、そして教会の誕生へ 12. 新約聖書～イエスの教えを自分の言葉で表現する (グループワーク) 13. 発表 14. 授業の振り返り、まとめ 15. あなたはどう生きるか～地の塩、世の光		
評価方法	レスポンスペーパー:15% (授業の感想や意見など) レポートおよび発表:50% 期末テスト:35% 授業貢献度(積極的な役割分担、発言など)を考慮します。		
テキスト *必ず購入	『聖書 聖書協会共同訳』		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	憲法	授業形式	講義
教員名	平野 善昭	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	日本国憲法を学ぶ		
授業の概要	日本国憲法の各規定の内容を確認しながら、その趣旨や背景を考える		
授業の到達目標 (ねらい)	憲法が我々の日常生活にどのような関わりを持っているのかを理解するとともに、憲法は何のためにあるのかを考察する中で、常に「なぜなのか？」を考える姿勢を身につける。		
授業計画	1. ガイダンス、日本国憲法の構成 ～ 憲法には何が書かれているのか ～ 2. 基本的人権総論、法の下での平等 ～ 1票の格差はどこまで許されるのか ～ 3. 精神的自由権 ～ 「時限爆弾の作り方」という本を自由に出版してよいのか ～ 4. 経済的自由権 ～ 国道の建設のために家を立ち退かなければならないのか ～ 5. 人身の自由 ～ 誘導尋問された自白は裁判の証拠になるのか ～ 6. 社会権、参政権 ～ 生活保護者と低所得者とのバランスをどう考えるのか ～ 7. 基本的人権のまとめ ～ 「二重の基準」とは何か ～ 8. 三権分立、国会の地位 ～ 国会は他の二権より「えらい」のか ～ 9. 国会の運営 ～ 衆議院と参議院の結論が分かれたらどうするのか ～ 10. 内閣 ～ 総理大臣を国民の選挙で選ぶことはできるのか ～ 11. 裁判所 ～ 裁判官によって判決が異なってもよいのか ～ 12. 財政、地方自治 ～ 財政のことがなぜ憲法に書かれているのか ～ 13. 天皇、戦争の放棄 ～ 自衛の戦争は認められるのか ～ 14. 憲法の改正、日本国憲法の生い立ち、統治機構のまとめ ～ なぜ憲法は簡単に改正できないのか ～ 15. 全体のまとめ、授業の振り返り		
評価方法	期末評価試験(80%)、提出物2回(20%)		
テキスト *必ず購入	「面白いほど理解できる憲法(第4版)」(憲法研究会) 早稲田経営出版(2023)		
参考書 *必要に応じ購入	「現代語訳 日本国憲法」(伊藤 真) ちくま新書(2014)		

科目名	時事問題	授業形式	講義(後半は各自の発表を交える)
教員名	平野 善昭	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	いま日本と世界で起こっていること		
授業の概要	いま起こっている政治、経済、社会、国際関係等の事象を確認するとともに、日本や世界が抱えている様々な課題について考え、他者に説明していく。		
授業の到達目標(ねらい)	テレビ・新聞・インターネット等で取り上げられている様々な情報を冷静に受け止めて理解するとともに、発生している課題について積極的に考え、また、発信していく姿勢を身につける。		
授業計画	1－1. ガイダンス ～ 授業の進め方、アンケート ～ －2. ウォーミングアップ ～ SNSの光と影 ～		
	2. 政治(その1) ～ 現在の日本の政治情勢 ～		
	3. 経済(その1) ～ 物価高と賃上げの動向 ～		
	4. 社会(その1) ～ 少子高齢化の進展 ～		
	5. 国際(その1) ～ トランプ大統領のアメリカと習近平の中国 ～		
	6. 環境・エネルギー ～ 地球温暖化、原子力発電所の再稼働 ～		
	7. 報道機関の現場 ～ ゲストスピーカーを迎えて ～		
	8－1. 受講生が読み解く最近のニュース(その1) ～ 各自発表 ～ －2. 財政 ～ 日本の借金の現状 ～		
	9－1. 受講生が読み解く最近のニュース(その2) ～ 各自発表 ～ －2. 文化・スポーツ・科学技術 ～ (未定) ～		
	10－1. 受講生が読み解く最近のニュース(その3) ～ 各自発表 ～ －2. 経済(その2) ～ (未定) ～		
	11－1. 受講生が読み解く最近のニュース(その4) ～ 各自発表 ～ －2. 社会(その2) ～ (未定) ～		
	12－1. 受講生が読み解く最近のニュース(その5) ～ 各自発表 ～ －2. 国際(その2) ～ (未定) ～		
	13－1. 受講生が読み解く最近のニュース(その6) ～ 各自発表 ～ －2. 政治(その2) ～ (未定) ～		
	14－1. 受講生が読み解く最近のニュース(予備) －2. 教育・保育を取り巻く課題		
	15－1. まとめ ～ 日本と世界の現状 ～ －2. レポート作成		
評価方法	各回の振り返りペーパーの提出(計40点)、発表(20点)、まとめのレポート(40点)		
テキスト *必ず購入	なし(毎回、関係資料を配付)		
参考書 *必要に応じ購入	「時事問題学習の理論と実践」(藤原孝章:編著)		

科目名	生活科学	授業形式	講義
教員名	櫛木 祥子	授業区分	選必
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	日常生活の事象を「子どもと生活」という視点を持って理解する		
授業の概要	生活の中で生じる様々な課題を、「子どもと生活」という問題意識を高め、それを支える知識・技能の修得を促す。		
授業の到達目標 (ねらい)	生活の中で生じる様々な課題を、「子どもと生活」という問題意識をもって理解し、得られた知識・技能を生かし、より良い生活を創造できるようにする。		
授業計画	1. オリエンテーション・衣生活(着ること)		
	2. 衣生活(着ること)		
	3. 衣生活(布の成り立ち)		
	4. 衣生活(布の成り立ち)		
	5. 衣生活		
	6. 住生活(住居の歴史)		
	7. 住生活(環境)		
	8. 住生活		
	9. 住生活		
	10. 食生活(安全性)		
	11. 食生活		
	12. 食生活		
	13. 食生活		
	14. まとめ		
	15. まとめ		
評価方法	期末試験60%・小テスト20%・授業へのとりくみ(レポート・課題)20%		
テキスト *必ず購入	使用せず		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	情報機器の活用	授業形式	演習
教員名	原田 恵理	授業区分	必修
年次配当	1年次通年	単位数	2単位
授業表題	パソコンの基本操作を習得し、保育へのICT導入について考える。		
授業の概要	本科目では、Windows, Microsoft Officeの基本操作を習得し、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。 保育現場におけるICT導入について考え、実際に保育ドキュメンテーションや保護者に向けたお便り、園紹介等を作成する。また、インターネットにおけるネットリテラシーや問題等に触れ、現代社会が抱える課題について学生自身が考える。		
授業の到達目標 (ねらい)	情報機器の活用・操作方法を実際に経験し習得する。 ・Word: 書式設定や印刷設定を利用し、表・図形・写真等を含む文書の作成ができる。 ・Excel: 適切な計算式や関数を用いた表の作成および、グラフの作成ができる。 ・PowerPoint: 見やすいスライドの作成と、スライドショーの実施および相手に伝わるプレゼンテーションができる。 ・上記の知識をもとに、保育ドキュメンテーション等を作成できる。		
授業計画	1. ICTの基礎知識 パソコンのしくみ、ネットのモラルやマナー、保育現場における情報機器の活用。学校でのPC利用方法。	16. 保育におけるExcelの活用 保育現場での活用場面を想定、学習を生かした効率的な表や様式の作成。	
	2. Wordの基礎知識 ファイルやフォルダの操作、Wordの起動と画面構成、キーボードの操作と日本語入力練習。	17. グラフと図形 グラフの作成、サイズ変更、タイトルの設定、グラフの種類と用途、児童台帳の作成。	
	3. 文書の作成 ページ設定、箇条書きやインデント、罫線やテキストボックスの挿入、文書の配置練習。	18. データベースの利用 児童台帳の作成、データの並べ替え、データの抽出と集計。	
	4. 図の挿入 画像・図形の挿入と編集、SmartArtの挿入、ワードアートの挿入。	19. グラフと計算式の活用(Excelのまとめ) 身体測定記録表を作成し、グラフにする。	
	5. 学内案内図の作成 図形を活用したイラストの作成、俯瞰図や簡単な地図の作成。	20. ExcelのWordへの引用 Excelの表やグラフをWordの文書に張り付ける。	
	6. 表の作成 表の生成と編集、セルの編集、セルへの図の挿入、表の入った文書の作成。	21. PowerPointの基礎知識 PowerPointの起動と画面構成、表示モードの切り替えなどのプレゼンテーションの操作。	
	7. 園だよりの作成 ここまでの授業内容の振り返り、園だよりの構成。	22. プレゼンテーションの作成 プレゼンテーションの作成、新しいスライドの挿入 箇条書きの入力。	
	8. Word振り返り 図形、表などを用いた複雑なレイアウトの作成。	23. 図やオブジェクトの挿入と編集 プレゼンテーションへ図、表、グラフ等の挿入。	
	9. Excel操作の基本 表計算ソフトの代表的機能、Excelの起動と画面構成、ブック、ワークシート、セルの関係。	24. 特殊効果の設定 画面切り替えとアニメーションの設定、図形へのアニメーションの設定。	
	10. データの入力と編集 データの種類と入力手順、連続データ・数値・日付の入力と修正、セルの書式設定。	25. プレゼンテーション「自分の好きなこと」 プレゼンテーション準備。	
	11. 表の作成と印刷 表の作成演習、表へのデータ入力と関数の利用。	26. プレゼンテーション <発表> 「自分の好きなこと」を他者に伝える。	
	12. 色々な数式-1- 数式の入力とコピー、再計算。相対参照と絶対参照、関数の基礎。	27. 出身園のドキュメンテーション作成 「出身園のプレゼンテーション」を他者に伝える	
	13. 色々な数式-2- 色々な関数の挿入と条件付き書式。	28. 出身園のドキュメンテーション<発表> 「出身園のプレゼンテーション」を他者に伝える	
	14. 保育におけるExcelの活用 保育現場での活用場面を想定、学習を生かした効率的な表や様式の作成。	29. 保育に関するプレゼンテーションの作成 (グループ学習) テーマに基づく調査や発表する内容の決定。	
	15. 前期の振り返り ExcelとWordの演習問題を通して前期の学習を振り返る。	30. グループごとに発表 <発表> (グループ学習) 資料作成・発表台本作成・練習などのプレゼン準備。	
評価方法	発表(3回)・・・60% 授業態度・・・20% 提出課題・・・20%		
テキスト *必ず購入	適宜資料を配布する。		
参考書 *必要に応じ購入			

5

科目名	文章表現	授業形式	演習
教員名	榎木 茂義	授業区分	選必
年次配当	1年次通年	単位数	1単位
授業表題	読みやすく、自分の気持ちが相手にきちんと伝わる文章を書くことによって、保育者としてふさわしい文章能力を身につける		
授業の概要	毎時漢字の小テストを行う。 テキストを用いて、適切な語法や構成力などを養う。 与えられた題について、考察・感想を書く。 与えられた文章を読み、それに対する考察・感想を書く。 与えられた文章を要約する。対立する複数の文章を読み、その考察を書く。		
授業の到達目標 (ねらい)	基本的な文章作成能力を高める。特に保育者として必要な文章作成力が養成する。 そのために、テキストを用いて、表記・漢字・文法・敬語や適切なことばの使い方などを学ぶ。 また、文章の文体・構成・段落の分け方・事実と考察・感想の区別を正しく理解することができるようになる。 漢字の小テストを繰り返すことで、漢字を正しく、丁寧に書くことができるようになる。 400字～800字の作文(小論文)を繰り返し書き、個別の添削指導を受けることで社会的な視野を広げることができる。 また自己の考え方を明確に文章にすることができるようになる。		
授業計画	1.授業オリエンテーション (授業目的、授業内容) 文章添削指導	16.漢字小テスト テキスト文の乱れ 2 課題文添削指導	
	2.漢字小テスト テキスト1 仮名づかい 文章添削指導	17.漢字小テスト テキスト文を短くする 課題文添削指導	
	3.漢字小テスト テキスト2 送り仮名 文章添削指導	18.漢字小テスト テキスト 的確に伝える 1 課題文添削指導	
	4.漢字小テスト 課題文添削指導	19.漢字小テスト テキスト的確に伝える 2 課題文添削指導	
	5.漢字小テスト テキスト3 同音異義語 課題文添削指導	20.漢字小テスト テキスト文の役割 課題文添削指導	
	6.漢字小テスト テキスト4 同訓異字 課題文添削指導	21.漢字小テスト テキスト接続詞1 課題文添削指導	
	7.漢字小テスト 課題文添削指導	22.漢字小テスト テキスト接続詞 2 課題文添削指導	
	8.漢字小テスト テキスト5 類義語 課題文添削指導	23.漢字小テスト 課題文添削指導	
	9.漢字小テスト テキスト6 慣用表現 課題文添削指導	24.漢字小テスト 課題文添削指導	
	10.漢字小テスト テキスト 慣用表現2 課題文添削指導	25.漢字小テスト 課題文添削指導	
	11.漢字小テスト 課題 暑中見舞いを書く	26.漢字小テスト 課題文添削指導	
	12.漢字小テスト 課題文添削指導	27.漢字小テスト 課題文添削指導	
	13.漢字小テスト テキスト敬語 課題文添削指導	28.課題文添削指導	
	14.前期試験	29.後期試験	
	15.漢字小テスト テキスト文の乱れ 1	30.後期試験の文章課題の添削	
評価方法	毎時行う漢字小テスト(10%) 課題や課題文の作文の提出状況と、その内容(30%) 年2回行う「授業の振り返り」の課題(50%) 授業中の意欲(10%)		
テキスト *必ず購入	基礎からの国語表現の実践 頻度順漢字2300plus		
参考書 *必要に応じ 購入			

科 目 名	英語コミュニケーション	授業形式	演習
教 員 名	平原 麻子	授業区分	必修
年次配当	1年次通年	単 位 数	2単位
授業表題			
授業の概要	国際化の進む日本社会の中で、保育士・幼稚園教諭として求められる英語力とは何かを考えながら、保育の現場を扱った教科書を中心に、聞く・話す・読む・書くの4技能の習得を目指します。		
授業の到達目標 (ねらい)	・保育の現場に必要な英語コミュニケーション力を身につけます。 ・様々な外国文化に触れ、保育士としての視野を広げます。 ・社会人として必要な国際性と教養を身につけます。		
授業計画	1. オリエンテーション／自己紹介	16. Unit 8 : Lunchtime	
	2. アルファベットチャンツ／Classroom English	17. Unit 9 : Toilet Dialog	
	3. Unit 1: First Step to Childcare English	18. Unit 10 : Fighting	
	4. Unit 2 : Welcome to Minato Nursery School!	19. Unit 11 : Injuries and Illness	
	5. Unit 3: Time and Numbers	20. 絵本を読む/Halloween	
	6. Unit 5 : Davy Meets His Classmate Takashi	21.絵本読み聞かせ演習	
	7.Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up	22. 絵本読み聞かせ発表	
	8.Unit 7 : Jobs at Nursery School	23. Unit 12: Telephone Calls	
	9. 英語の絵本を読む	24. Unit 13 : Field Trip	
	10..英語の絵本:読み聞かせ演習	25. オリジナル英語スキット準備	
	11. 英語の絵本:読み聞かせ演習	26. オリジナル英語スキット準備	
	12. 英語の絵本:読み聞かせ発表	27. オリジナル英語スキット発表/Christmas Time	
	13. Childcare English 前期の復習	Childcare English 総復習	
	14. 前期のまとめ (Unit 1－Unit 7)	29. 後期のまとめ (Unit 8－Unit 15)	
	15. 前期の振り返り	30. 1年間の振り返り	
評価方法	授業態度、提出課題、パフォーマンス課題、筆記試験		
テキスト *必ず購入	『保育の英会話』萌文書林		
参 考 書 *必要に応じ購入			

7

科目名	保健体育 I	授業形式	講義
教員名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	保育学生のライフスタイルを考える		
授業の概要	本授業は、生涯にわたる健康の維持・増進に役立つ身体トレーニング方法やストレスマネジメント等について学び、健康的なライフスタイルについて考える。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 身体トレーニングの基本的事項について理解する。 2. ストレスマネジメントや生活習慣病の予防について理解する。 3. 健康的なライフスタイルについて、自分なりの考えを持つことができる。		
授業計画	1. ガイダンス 授業概要、評価方法		
	2. 健康の定義 WHOの完全に良好な状態		
	3. ストレッチング 静的ストレッチング、動的ストレッチング		
	4. レジスタンス運動 等尺性収縮、等張性収縮、等速性収縮		
	5. 有酸素運動 自覚的運動強度、カルボネン法		
	6. 身体をはかる 脈拍数、周径囲、BMI、体組成		
	7. 心の健康 ストレスマネジメント、マインドフルネス		
	8. 飲酒と健康 飲酒量の目安		
	9. カフェインと健康 摂取量の目安		
	10. 睡眠 光と闇		
	11. 課題1 自分のライフスタイルを省みる		
	12. 課題2 関心のあるテーマについて調べる		
	13. 課題3 関心のあるテーマについてまとめる		
	14. 課題4 調べてまとめたことを発表する		
	15. まとめ 復習と総括		
評価方法	課題(80%)、授業への積極的な取り組み(20%)		
テキスト *必ず購入	『スポーツ健康科学』 佐藤洋 みらい		
参考書 *必要に応じ購入			

科 目 名	保健体育Ⅱ	授業形式	実技
教 員 名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	保育学生のための体育実技		
授業の概要	運動の実践を通して、運動の楽しさを体感する。 運動の類似性や動きのコツを学ぶ。 仲間と共に活動する中で、コミュニケーションの方法を学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 運動の楽しさを体感し、日々の運動習慣に繋げることができる。 2. 運動学習のポイントを理解し、運動技能の向上に活かすことができる。 3. 運動学習のポイントを理解し、子どもの運動指導に活かすことができる。 4. ルールやマナーを遵守し、仲間と協力して安全に楽しく運動ができる。		
授業計画	1. 授業ガイダンス 授業についての説明および確認		
	2. マット運動(1) 安全な身のこなし		
	3. マット運動(2) ゆりかご、前転、後転		
	4. 長縄跳び のびやかな連続ジャンプ		
	5. 短縄跳び 1回旋1跳躍と1回旋2跳躍		
	6. ウォーキング 姿勢、接地		
	7. ランニング 動き作り、スキップ		
	8. 前半のまとめ 復習と総括		
	9. 球技(1) ドッジボール		
	10. 球技(2) バドミントン		
	11. 球技(3) ビーチボールバレー		
	12. 鉄棒(1) つばめ、ふとん		
	13. 鉄棒(2) 逆上がり		
	14. ダンス 3拍子で踊る		
	15. 後半のまとめ 復習と総括		
評価方法	実技試験(40%) 課題提出(40%) 授業への積極的な取り組み(20%)		
テキスト *必ず購入	特になし。必要に応じて資料を配布する。		
参 考 書 *必要に応じ 購入	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)幼稚園教育要領解説(文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府)		

科 目 名	幼児と健康	授業形式	演習
教 員 名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	幼児の運動遊び指導		
授業の概要	領域「健康」を踏まえ、子どもの身体を育む運動遊びの実践に必要な知識と技術を学ぶ。 具体的な環境設定、援助方法、安全面の配慮等について学ぶ。 教具の有効かつ安全な活用方法を学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 子どもの身体の発達や領域「健康」のねらい及び内容についての理解を深める。 2. 子どもの身体を育む運動遊びを構想し、安全に実践できる。 3. 運動の類似性や動きのコツを理解し、モデルとなって動くことができる。 4. 教具を有効かつ安全に活用することができる。		
授業計画	1. 授業ガイダンス 授業に関しての説明および確認		
	2. 身体をほぐす ストレッチ、呼吸、姿勢		
	3. 伝承遊び 仲間と遊ぶ		
	4. マット運動(1) 動物歩き、ゆりかご		
	5. マット運動(2) 保育を構想し実践する		
	6. 縄跳び(1) 縄跳び歌、1回旋1跳躍と1回旋2跳躍		
	7. 縄跳び(2) 保育を構想し実践する		
	8. 前半のまとめ 乳幼児の運動発達、身体を守る		
	9. 鉄棒(1) つばめ、ふとん、逆上がり		
	10. 鉄棒(2) 保育を構想し実践する		
	11. 走る遊び(1) おにごっこ、リレー		
	12. 走る遊び(2) 保育を構想し実践する		
	13. ボール遊び(1) 投げる、とる、蹴る		
	14. ボール遊び(2) 保育を構想し実践する		
	15. 後半のまとめ 多様な動きの経験、教具の安全な使用法		
評価方法	定期試験(50%)、課題(30%)、授業への積極的な取り組み(20%)		
テキスト *必ず購入	『演習 保育内容 健康 一基礎的事項の理解と指導法一』河邊貴子 吉田伊津美 編著 建帛社		
参考書 *必要に応じ購入	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)幼稚園教育要領解説(文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府)		

科目名	幼児と環境	授業形式	演習
教員名	原田 恵理	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	領域「環境」の指導に関する、幼児を取り巻く環境、乳幼児と環境の関わりについての専門的事項についての感性を養い、知識と技能を身に着ける。		
授業の概要	乳幼児を取り巻く環境、乳幼児の思考等の発達、標識・文字等、情報・施設との関わり等の発達について、具体的な映像や写真の視聴、事例の検討、仲間との学び合いを通して学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」に示された領域「環境」のねらいと内容に基づいて、子どもの環境と関わり方および指導内容、さらに、幼児を取り巻く環境の現代的課題について理解する。 2. 養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解したり、保育に当たって保育者が留意、配慮すべき事項を理解したりすることにより、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。 3. 領域「環境」において、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿をふまえて、子どもの発達を、保育所保育指針の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育の領域「環境」を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。 4. 子どもの思考・科学的概念の発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教具や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実践について理解する。		
授業計画	1. 初回ガイダンス 幼児と環境について 2. 幼児教育の基本と領域「環境」の関わり 3. 環境を通した保育の実践 人的環境としての役割 4. 環境を通した保育の実践 保育室の環境構成について 5. 環境を通した保育の実践 戸外の環境構成について 6. 園庭における遊びの展開を顧慮した環境構成 7. 身近な素材や自然物を用いた保育の実践 8. 自然に親しみ動植物に触れる保育の実践 9. 数量・図形に関わる保育の実践 10. 標識・文字に関わる保育の実践 11. 文化的環境や地域との関わり 12. 領域「環境」に基づく指導計画と評価についての理解 13. 指導案の構造理解と作成 14. 模擬保育 身近な素材や自然を用いた教材作成 15. 幼児を取り巻く環境の現代的な課題について		
評価方法	試験・・・・・・・・・・60% 授業態度・・・・・・・・20% リアクションペーパー・提出課題・・・20%		
テキスト *必ず購入	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法 わかば社		
参考書 *必要に応じ購入	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省		

科目名	幼児と言葉	授業形式	演習
教員名	小林 恵	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	幼児と言葉		
授業の概要	領域「言葉」について構造的に捉えたうえで、乳幼児期の言葉の獲得過程や言葉の意義と機能について理解し、保育者としてどのように関わっていけばよいのかを事例及び映像等を通して学ぶ。豊かな感覚や言葉を育むために必要な基礎知識を身につけることをめざしていく。		
授業の到達目標 (ねらい)	領域「言葉」のねらい及び内容と子どもの言葉を育てる保育者の役割や環境について理解する。乳幼児の発達や学びの過程を理解し、言葉の感覚を豊かにする保育者の役割や援助の仕方を身につける。領域「言葉」の特性に応じた現代の課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる力を養う。		
授業計画	1. オリエンテーション ・授業の進め方 ・言葉とは何か		
	2. 領域「言葉」の内容理解		
	3. 乳幼児期の言葉の教育		
	4. 乳幼児期における言葉の発達①0歳～2歳		
	5. 乳幼児期における言葉の発達②3歳～6歳		
	6. 生活体験と言葉		
	7. 遊びと言葉		
	8. 感動体験と言葉		
	9. 言葉の発達を促す児童文化財		
	10. 文字との出会い		
	11. 子どもの育ちを支える保育者の言葉		
	12. 言葉の関わりに配慮を要する子ども(映像を使用)		
	13. 保幼小の連携と言葉		
	14. 幼児期の言葉の課題		
	15. まとめ(これまでの授業内容の振り返り)		
評価方法	定期試験(60%)、受講態度、個人発表、課題提出(40%)から総合的に評価する		
テキスト *必ず購入	子どもの育ちを支える 子どもと言葉 浅見 均編著 大学図書出版		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	幼児と表現A	授業形式	演習
教員名	藤岡 郁子 他	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	音楽・造形表現における基本的な保育技能を身につける		
授業の概要	領域「表現」に示されたねらい及び内容を踏まえ、乳幼児の発達に合わせた表現活動を経験しながら、保育者としての感性を磨くことを目指す。子どもの豊かな感性を育むために、保育者がどのように関わっていくのか実践例を通して具体的に学習する。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 領域「表現」の内容を理解し、子どもの発達と関連させながら捉えることができる。 2. 音楽Ⅰ・Ⅱや造形で身につけた知識や技術を基に保育の場で実践できる力をつける。 3. いくつかの課題を通して、学生自身の表現意欲を高め、感性を磨く。		
授業計画	1. オリエンテーション ・授業の概要とねらい ・領域「表現」の内容理解 2. シュタイナー教育について 素材に触れ、表現方法を考察する 実際の園での様子—ICTを活用した映像資料の視聴— 3. シュタイナー教育(造形による表現) 羊毛の手しごとを経験する 4. シュタイナー教育(造形による表現) 羊毛の手しごとを経験する 5. シュタイナー教育(造形による表現) 羊毛の手しごとを通して—グループで学習内容の話し合い— 6. 音楽と動き 手あそびとは 〈実際の園での様子〉—ICTを活用した映像資料の視聴— 7. 音楽と動き 手あそびの目的 手あそび、うたあそび 8. 音楽と動き 手あそびを通して感覚、リズム感、思考力を育てる 手あそび、うたあそび 9. 音楽と動き 手あそびのまとめ 手あそび、うたあそび 10. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ わらべうたとは 〈実際の園での様子〉—ICTを活用した映像資料の視聴— 11. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ 自然とわらべうた —実際の自然に触れ、その感想を共有— 12. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ 文化とわらべうた —わらべうたができた背景の文化— 13. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ 音楽教育としてのわらべうた —グループで学習内容の話し合い— 14. コダーイの基本理念に基いて自国の伝承音楽を学ぶ わらべうたのまとめ 各自授業内発表 15. まとめ ITCを使用した表現活動方法の考察、授業で学んだことの振り返り		
評価方法	筆記試験50% 授業態度・意欲50%		
テキスト *必ず購入	「わらべうた・カノン集 まめっちょ1」(コダーイ芸術研究所編) 全音楽譜出版社 「保育所保育指針解説」厚生労働省		
参考書 *必要に応じ購入	プリント(必要に応じて)		

科目名	幼児と表現 B	授業形式	演習
教員名	鈴木 衛	授業区分	選必
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	様々な楽器に触れ、「合奏」という音楽体験を通して豊かな表現力や感性を育む		
授業の概要	簡単なリズム遊びや楽器遊び、グループ毎による合奏の体験などを通して、音楽の楽しさや仲間と心を合わせる大切さを味わい、人間力や自己表現力を養う		
授業の到達目標 (ねらい)	・音楽の楽しさを知る ・2年次前期までに受講してきた音楽系科目で学んだ事を発展させて、高度な技術や音楽性を身につける ・実際の保育現場で求められる、子どもたちへの合奏指導に対する能力の修得		
授業計画	1. オリエンテーション、楽器の基本的な扱い方と奏法(1) 2. 楽器の基本的な扱い方と奏法(2)、指揮法、クリスマスコンサートの曲決め(1) 3. クリスマスコンサートの曲決め(2)、グループによる簡単なアンサンブル発表 4. クリスマスコンサートの担当パート決め(1) お試し練習を行う 5. クリスマスコンサートの担当パート決め(2)、合奏(1) 担当パートを確定し、個人練習を行う 6. 合奏(2) 進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 7. 合奏(3) 進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 8. 合奏(4) 進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 9. 合奏(5) 進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 10. 合奏(6) 進捗状況に応じて、個人練習やパート練習、合奏練習などを行う 11. 本番会場でのリハーサル セッティングや音量バランスなどを確認し、最終調整を行う 12. まとめの演習(1) 実際の保育現場での合奏指導を想定した演習を行う 13. まとめの演習(2) 実際の保育現場での合奏指導を想定した演習を行う 14. まとめの演習(3) 実際の保育現場での合奏指導を想定した演習を行う 15. まとめの演習(4) 実際の保育現場での合奏指導を想定した演習を行う		
評価方法	演奏発表、まとめの演習、授業への取り組みに対する意欲や姿勢などによって総合的に評価する		
テキスト *必ず購入	「たのしい楽器あそびと合奏の本」 赤羽美希著 (㈱ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス)		
参考書 *必要に応じ購入	プリント配布など、必要に応じて授業時に案内します		

科 目 名	幼児と音楽A		授業形式	演習
教 員 名	佐々木 直子・高橋 真理子・吉沢 美香・藤岡 郁子		授業区分	必修
年次配当	1年次通年		単 位 数	2単位
授業表題	保育の現場で求められる演奏技術習得のためのレッスンで伴奏法と指導法を習得する。 子どものうたの弾き歌いを中心に音楽表現の楽しさを味わい、子どもの発達状態に合わせてその楽しさを伝えるための実力を身に着ける			
授業の概要	ピアノの演奏能力には個人差があるので、それぞれ学生にあった教材を選び、個人レッスン形態で授業を行う。 幼稚園や保育園で日常的に用いられる曲の演奏や季節の子どものうたの弾き歌いができるようになることに重点をおく。子どものうたのレパートリーを増やすと共に、バイエルを用いてピアノ演奏の基本技術を習得する。 事前に各自のピアノのレベルを確認し、5段階レベルの本人に合った進度表を用い、進度に遅れないよう毎日練習しレッスンを受ける。			
授業の到達目標 (ねらい)	1. 基礎的なバイエルも練習しながら、保育現場で求められる演奏技術を習得する 2. 実習や保育現場で実際に使用する子どもうたの弾き歌いができる 3. 子どもの発達に合わせ、保育における音楽表現の楽しさを伝えられる知識・技能・表現力を身に付ける			
授業計画	1. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 ガイダンス びあのだりーむ4-1.	16. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル103 おべんとう おかえりのうた		
	2. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 びあのだりーむ4-3.4.5	17. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 やきいもグーチャーパー へ長調の音階(片手ずつ) まつぼっくり		
	3. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 びあのだりーむ4-6.9.10 ハ長調のれんしゅう	18. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 ハッピーバースデー		
	4. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 びあのだりーむ4-11.14.17	19. 夏休み課題 授業内発表		
	5. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 びあのだりーむ4-18.20 おはようのうた ト長調のれんしゅう	20. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル94 さよならのうた		
	6. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 びあのだりーむ4-24.25 どんぐりころころ	21. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル72 大きな栗の木の下で		
	7. レベル別チェック 授業内発表	22. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 あわてんぼうのサンタクロース		
	8. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル48 とんぼのめがね	23. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル75 お正月		
	9. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル58 みつばちマーチ	24. 進度チェック 授業内発表		
	10. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル61 ふしぎなポケット	25. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 ゆき		
	11. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル60 ニ長調の音階(片手ずつ)	26. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 あくしゅでこんにちは とけいのうた		
	12. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 バイエル66 かたつむり	27. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 森のくまさん うれしいひなまつり		
	13. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 あめふりくまのこ	28. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 思い出のアルバム		
	14. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 14回目までの復習	29. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex.入門 29回目までの復習		
	15. 成果発表 授業内発表	30. 成果発表、授業内発表 春休み課題提示		
評価方法	授業への参加態度(40%)及び実技試験(60%)			
テキスト ※必ず購入	「標準バイエル」全音楽譜出版社 「保育のための歌と遊び こどもの世界」(尾林裕美子他編集)ドレミ楽譜出版社 「音楽リズム 幼児のうた楽譜集」(小林美実編)東京書籍			
参考書 ※必要に応じ購入	「びあのだりーむ 4」(田丸信明著)学研パブリッシング プリント			

15

科目名	幼児と音楽B	授業形式	演習
教員名	北川 聖子・長谷川 顕子・藤岡 郁子	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	こどものうたを伴奏するための演奏技術と弾き歌いの能力向上を目指す		
授業の概要	領域「表現」に示されたねらい及び内容を理解し、「幼児と音楽A」で学んだ内容をもとに、子どもの音楽活動を支える基礎技能としてさらに高度なピアノ演奏技術を身に着ける。 実習や保育現場で必要な子どものうたの弾き歌いを中心に音楽表現の楽しさを味わい、乳幼児の音楽活動に役立つ実力を身に着ける。 子どもたちの様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむを実現するためにクラシック曲も学ぶ。		
授業の到達目標(ねらい)	1. パイエルを使用して譜読みの練習とテクニックを習得する。 2. 季節、行事、園生活に必要な曲がスムーズに弾き歌いできるようにする。 3. 子どもの発達に合わせ、保育における音楽表現の楽しさを伝えられる知識・技能・表現力を身に付ける。		
授業計画	1. オリエンテーション 領域「表現」のねらいと内容を理解し音楽表現の重要性と知識・技能・表現力を習得するためのこの授業の方法説明		
	2. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン 春休みの課題 ex. 入門 おべんとう(原曲)・おかえりのうた(原曲)・礼		
	3. 春休みの課題発表 授業内発表		
	4. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(教育実習に備えて) ex. 入門 はをみがきましよう おかたづけ		
	5. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(教育実習に備えて) ex. 入門 あまだれぼったん		
	6. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(教育実習に備えて) ex. 入門 世界中の子どもたちが		
	7. 教育実習に向けて今まで学んだこどものうたの弾き歌いの復習		
	8. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 たなばたさま		
	9. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン ex. 入門 さんぽ		
	10. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(クラシックの曲を弾いてみよう)		
	11. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(クラシックの曲を弾いてみよう)		
	12. レベルに応じた進度表に沿った課題の個人レッスン(クラシックの曲を弾いてみよう)		
	13. 自由曲(クラシック曲)の発表		
	14. 連弾の説明 仲間と協力して行う音楽活動の意味や意義、連弾の楽しさを知るために、ICTを活用した連弾の映像資料の視聴		
	15. ペアでの連弾の曲選び及び練習		
評価方法	授業への参加態度(40%)及び実技試験(60%)		
テキスト *必ず購入	「保育のための歌と遊び こどもの世界」(尾林裕美子他編集)ドレミ楽譜出版社 「音楽リズム 幼児のうた楽譜集」(小林美実編)東京書籍		
参考書 *必要に応じて購入	プリント(必要に応じて)		

科目名	保育原理	授業形式	講義
教員名	二階堂 邦子	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	保育原理		
授業の概要	保育の営みは子どもを大切に主体として考えることから始まる。 この授業では、保育とは何かを考察し、保育の意義と目的を理解する。 保育・幼児教育がどのように位置づけられ、法制度の中で行われているのか学習する。		
授業の到達目標 (ねらい)	・保育の理念や概念を学び、保育の意義と目的を理解する ・日本の法制度を学び、多様な保育と子育て支援を理解する ・保育の基本と構造を理解し、保育実践と関連づけることができる		
授業計画	1. 保育とはなにか 意義と目的		
	2. 子どもの存在と子ども理解		
	3. 日本の保育思想と歴史		
	4. 諸外国の保育思想と歴史		
	5. 保育の社会的意義と役割		
	6. 保育にかかわる関係法令		
	7. 子ども・子育て支援新制度		
	8. 保育制度(保育所・幼稚園・認定こども園)		
	9. 幼稚園教育要領における保育の構造、変遷課程		
	10. 保育所保育指針における保育の構造、変遷課程		
	11. 保育における養護と教育		
	12. 乳児の保育		
	13. 3歳以上児の保育		
	14. 保育政策の動向		
	15. 「今は」における保育の現状と課題		
評価方法	定期試験(70%)、課題レポート(30%)		
テキスト *必ず購入	保育学のはじめの一步～おさなごにまなぶ～ 幼稚園教育要領解説、保育所保育指針解説、幼保連携型認定こども園教育保育要領解説		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育原理	授業形式	講義
教員名	大川 洋	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	教育原理		
授業の概要	1. 教育の理念ならびに教育に関する歴史および思想を学ぶ。 2. 教育に関する社会的、制度的、経営的事項を学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 教育の本質、意義、目的、目標および子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 3. 教育の制度について理解する。 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する。 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。 6. 学校と地域との連携、および学校安全への対応を理解する。		
授業計画	1. 教育の意義 予習・復習:テキストの第1章「教育の意義」を読む。		
	2. 教育の目的 予習・復習:テキストの第2章「教育の目的」を読む。		
	3. 乳幼児期の教育の特性 予習・復習:テキストの第3章「乳幼児期の教育の特性」を読む。		
	4. 教育と子ども家庭福祉の関連性 予習・復習:テキストの第4章「教育と子ども家庭福祉の関連性」を読む。		
	5. 人間形成と家庭・地域・社会 小テストを実施。予習・復習:テキストの第5章「人間形成と家庭・地域社会」を読む。		
	6. 諸外国の教育思想 予習・復習:テキストの第6章「諸外国の教育思想」を読む。		
	7. 諸外国の教育の歴史 予習・復習:テキストの第7章「諸外国の教育の歴史」を読む。		
	8. 日本の教育思想・歴史 予習・復習:テキストの第8章「日本の教育思想・歴史」を読む。		
	9. 子ども観と教育観 予習・復習:テキストの第9章「子ども観と教育観」を読む。		
	10. 教育制度の基本 小テストを実施。予習・復習:テキストの第10章「教育制度の基本」を読む。		
	11. 教育の法律と行政 予習・復習:テキストの第11章「教育の法律と行政」を読む。		
	12. 諸外国の教育制度 予習・復習:テキストの第12章「諸外国の教育制度」を読む。		
	13. 教育実践の基礎 予習・復習:テキストの第13章「教育実践の基礎」を読む。		
	14. さまざまな教育実践 予習・復習:テキストの第14章「さまざまな教育実践」を読む。		
	15. 生涯学習社会における教育の現状と課題 予習・復習:テキストの第15章「生涯学習社会における教育の現状と課題」を読む。		
評価方法	小テストおよび期末試験(100点)。		
テキスト *必ず購入	児童育成協会監修、矢藤誠慈郎・北野幸子編集『教育原理』(新・基本保育シリーズ2)中央法規出版、2019年。(2,200円)		
参考書 *必要に応じ購入	吉岡良昌・大川 洋『いのちを育む教育学』春風社、2008年。		

科目名	子ども家庭福祉	授業形式	講義
教員名	鈴木良東	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	子ども家庭福祉の基礎的理解と、社会的な背景における課題と解決策について学習する		
授業の概要	- 子ども家庭福祉の理念・制度・方法について、講義だけではなく、統計資料や新聞記事、映像等を活用しながら、討議をし、理解を深める。 - 年に1回程度小テストを行い、到達度を確認する。 - 児童福祉施設等職員をゲストティーチャーとして招き、子ども家庭福祉の理解を深める。		
授業の到達目標 (ねらい)	子ども家庭福祉の理念・制度・方法について理解し説明できる。 保育士として、子どもだけではなく、家庭もふくめた支援が実践できるようにする。		
授業計画	1. オリエンテーション 子ども家庭福祉の理念		
	2. 現代社会と子ども家庭福祉		
	3. 子どもの人権擁護と法制度		
	4. 子ども家庭福祉の歴史的変遷と先駆者		
	5. 子育て施策の変遷		
	6. 母子保健の制度と今日的役割		
	7. 児童健全育成の理解		
	8. 子ども家庭福祉の施設と専門職		
	9. 児童虐待への対応		
	10. 貧困家庭、外国籍の子どもと家庭への支援		
	11. 社会的養護の理解		
	12. 障害のある子への対応		
	13. 少年非行等への対応		
	14. 試験とまとめ		
	15. 子ども家庭福祉の現状と課題		
評価方法	- 授業内での取り組み(積極的な取り組み、発言内容) 10% - レポート 10% - 試験 80%		
テキスト *必ず購入	子ども家庭福祉 (最新保育士養成講座) 全国社会福祉協議会		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	社会福祉	授業形式	講義
教員名	高橋 愛優香	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	社会福祉の意義・福祉制度の全体像を理解する。		
授業の概要	ソーシャルワークの歴史的背景とその中で構築されてきた理論・制度の変遷を学び、それが現代の社会的課題とどのように結びついているのか、支援を必要としている方の背景にある社会的状況・背景の理解などを含めて、保育士という専門職が、ソーシャルワークの視点を持ち、社会でどのような役割を担っているのか学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	社会福祉の意義や、それが構築されてきた歴史的背景を理解する。 支援が必要な方の社会的背景を理解した上で、多面的な対象者理解・多職種連携のあり方を学ぶ。 保育と言う現場の中でのソーシャルワークの意義を理解し、保育士が担っている役割を考える。		
授業計画	1. 社会福祉の理念		
	2. 社会福祉の歴史的変遷		
	3. 社会福祉の制度と法体系		
	4. 社会福祉財政と実施機関、社会福祉施設等		
	5. 社会福祉の専門職		
	6. 社会保障および関連制度の概要		
	7. 相談援助の理論		
	8. 相談援助の意義と機能		
	9. 相談援助の対象と課程		
	10. 相談援助の方法と技術		
	11. 社会福祉における利用者の保護に関わるしくみ		
	12. 少子高齢化社会における子育て支援		
	13. 共生社会の実現と障害者施策		
	14. 筆記試験		
	15. まとめ 在宅福祉・地域福祉の推進、諸外国の社会福祉の動向		
評価方法	授業への参加態度(50%)、筆記試験(50%)		
テキスト *必ず購入	「新基本保育シリーズ④ 社会福祉 第2版」中央法規		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	子ども家庭支援論	授業形式	講義
教員名	大澤 千佳子	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	子ども家庭支援の意義とその役割を理解し、具体的支援の方法を学んでいきます。		
授業の概要	子どもや家庭を取り巻く環境の変化によって、子どもの生活や育ちにつながる課題が生まれている。保護者が子どもを育てていくために必要なさまざまな力も弱められている。そのような中で、子ども家庭支援の必要性を理解し、実践へと繋げていく。		
授業の到達目標 (ねらい)	①子育て家庭に対する支援の意義と目的を理解する。 ②保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と内容について理解する。 ③支援の制度について理解する。 ④支援が目指す方向について理解し、実践に繋げる。		
授業計画	1. オリエンテーション		
	2. 子ども家庭支援の目的と機能		
	3. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義		
	4. 子どもの育ちの喜びの共有		
	5. 子育てを自ら実践する力の向上への支援		
	6. 保育士に求められる基本的態度		
	7. 家庭の状況に応じた支援		
	8. 子育て家庭の福祉を図るための支援		
	9. 子ども家庭支援の内容と対象		
	10. 保育所等を利用する子どもの家庭への支援		
	11. 地域の子育て家庭への支援		
	12. 要保護児童及びその家庭に対する支援		
	13. 子育て支援に関する課題と展望		
	14. 試験		
	15. まとめ		
評価方法	試験結果、授業に対する姿勢、課題提出状況とその内容		
テキスト *必ず購入	新基本保育士シリーズ5 子ども家庭支援論 中央出版		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	社会的養護Ⅰ	授業形式	講義
教員名	松田 雄年	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	児童福祉法の改正から「新しい社会的養育ビジョン」へ、そして都道府県社会的養育推進計画策定を通じて、社会的養護の現状と展望を体系的に理解する。(児童養護施設から見える今後の「社会的養護」在り方)		
授業の概要	改正「児童福祉法」を中心に、時事の新聞記事等を通じ、社会的養護の現状を提供することによって、各福祉施設の日常生活支援の状況とその背景を想像する。そして改正児童福祉法から、更なる提言の「新しい社会的養育ビジョン」を経て「都道府県社会的養育推進計画」の策定を通して、社会的養護がどの様に変革されようとしているのか、その制度や法体系、また歴史の変遷を体系的に理解する。さらに家庭ではない各福祉施設で生活している子どもたちへの思慮や特性を理解し、相応しい保育士像を学習し、社会的養護のあり方を総合的かつ具体的に考察することを目的とする。 また“感じる心”、“伝える手段”、“推察する思考”を刺激し、多角的に考察できる能力を養う。		
授業の到達目標 (ねらい)	理念が明確化された「改正児童福祉法」から、社会的養護の子どもたちの現状と歴史、児童福祉施設の意味と現状を理解し、「新しい社会的養育ビジョン」、「社会養育推進計画」を通して、今後の将来像を理解する。 本来子どもたちは家庭で生活し、諸事情で施設生活を余儀なくされ、その本来あるべき姿の代替である施設の意味と、権利擁護や法制度等を通じて、時事問題になっている虐待の実情と防止の観点から、社会的養護の対象や形態、そして現状と課題を理解し、それらに関わる施設等で働くべき専門職の資質を獲得する。		
授業計画	1. 社会的養護Ⅰとは… オリエンテーション(社会的養護を学ぶ意義 少子高齢化の現状と社会的養護の子ども達の現況を知る) 2. 子どもの権利擁護 現代社会の病理 社会環境の推移 人権擁護 親と子どもの関わり方 子どもの育ちと社会の役割 3. 児童養護の歴史 児童養護の歴史の変遷 先駆者の取り組みと児童福祉施設の歴史 障害児への救済活動 4. 家庭的養護 施設養護とホスピタリズム 家庭養護と施設養護 家庭的養護 保護的福祉から支援的福祉へ 5. 児童福祉施設 子ども達のための施設養護の体系と種類 施設養護の役割と現状 名称変更 個別化と自立支援 6. 里親・養子制度 児童福祉法の改正と家庭養護 親権 施設と地域 施設と里親 施設と家庭 フォスタリング機関 7. 児童福祉施設職員 児童福祉施設職員としての被虐待児への対応 役割分担と職能別職員 多様な専門職 心理とFSW 8. 虐待／施設内虐待 児童虐待の種類 施設内虐待の実態 マルトリートメント 児童相談所の現状と189(いちはやく) 9. 施設職員の資質 施設援助者としての資質と専門性 各分野の倫理綱領 その現実的負担と喜び 職員研修 10. 専門的援助技術 施設援助者としての理念と援助技術 家庭復帰 施設養護中心から家庭養護の推進へ 11. 組織とチームワーク 組織活動の基本 問題解決とチームワーク グループワーク スーパービジョンの必要性和役割 12. 施設の記録 児童票 自立支援計画書 育成記録 アドミッションケア リービングケア アフターケア 13. 地域福祉 社会的養護と地域福祉 ボランティア活動と受け入れ 施設機能の開放 児童家庭支援センター 14. 今後の社会的養護 施設養護の課題 社会的養護の将来・未来像 まとめ 15. 保育士の役割と責任 福祉施設の保育士としての役割と支援 社会における保育士のあるべき姿と責任		
評価方法	テスト(40%)・レポート(30%)・授業態度及び振り返りシート(30%)		
テキスト *必ず購入	図解で学ぶ保育『社会的養護Ⅰ』原田旬哉・杉山宗尚編著 萌文書林		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教職概論	授業形式	講義
教員名	簗輪 進司	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	教育の基礎的理解に関する内容であり、幼稚園教諭と保育者のための教職概論		
授業の概要	教育の現状を理解するとともに課題を捉え、教職の意義、教師の役割を考え、求められる教師像をもとにその資質や能力について学び、自己形成を図る。さらに教師として教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を学び、職務を遂行するための姿勢や能力の開発、実践力について考え、自己の未来像を築く。		
授業の到達目標 (ねらい)	1.教職の意義、教師の仕事と役割、教師の専門性、様々な連携による教育の在り方などについて理解を深める。 2.教育を取り巻く現状と課題を捉え、教職にあるものとしての倫理観、責任感、資質と能力などについて考え、自己形成を図る。 3.教員の職務の全体像や、教員に課せられる服務上・身分上の義務および身分保障を理解する。 4.理想的な教師像を探究するとともに、自己課題の発見とその解決能力を身に付ける。 5.教員研修について理解し、専門職として生涯にわたって学び続けることの必要性を認識する。		
授業計画	1.オリエンテーション なぜ教師を目指すのか？ 2.教職観と理想の教師像 3.教師と教員養成の歴史 4.教員の任用と服務 5.教師の役割と仕事 6.教師の職場環境 7.教師の資質向上と研修 8.教育実習の意義と心得 9.教職への進路選択と採用選考(面接の基礎知識) 10.特別支援教育の視点から(発達障害とは) 11.これからの教師に求められていること 12.子どもと保護者をどう支援するか 13.発達支援の実践①「子どもが変わるための目標設定と支援」 14.発達支援の実践②「場面でわかる発達支援の実践」 15.授業の振り返り		
評価方法	1. 授業中の態度(20%) 2. 授業中の小テスト振り返りカード(40%) 3. 期末試験(40%)		
テキスト *必ず購入	『教職概論』(第7次改訂版)(2025) 佐藤晴雄 著 (学陽書房)		
参考書 *必要に応じ購入	必要に応じて授業中に紹介する		

科目名	教育保育社会学	授業形式	講義
教員名	小林 恵	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	教育保育社会学		
授業の概要	保育・教育に関する多様なニーズの存在や、保育者としての職務を理解し、園や学校の危機管理体制や事故対応などについての具体的な取り組みにも触れる。		
授業の到達目標 (ねらい)	・変わりゆく社会の状況を理解し、保育・教育への影響や課題及び対応策について理解する。 ・危機管理・安全教育の重要性について、基礎的な知識を身につける。		
授業計画	1. 子どもを取り巻く様々な環境の変化と保育者の役割		
	2. グローバル化と多文化理解		
	3. 子どもの生活の変容について		
	4. 園・学校における安全管理と危機管理		
	5. 生活安全・交通安全・災害安全を踏まえた安全上の課題		
	6. 事故や災害に対する園や学校の危機管理体制のあり方と対応策		
	7. 家庭教育と幼児教育①幼児教育をめぐる近年の変化		
	8. 家庭教育と幼児教育②子育て不安		
	9. 家庭教育と幼児教育③小1プロブレム		
	10. 子どもの貧困について(映像を使用)		
	11. 子どもの虐待について		
	12. 園を取り巻く地域との連携、協働による保育・教育活動の意義		
	13. 子ども自らが様々な体験を通して得る学びの変化①		
	14. 子ども自らが様々な体験を通して得る学びの変化②		
	15. まとめ(これまでの授業内容の振り返り)		
評価方法	定期試験(60%)、受講態度、個人発表、課題提出(40%)から総合的に評価する。		
テキスト *必ず購入	適宜プリントを配布		
参考書 *必要に応じ購入	特になし		

科目名	保育者論	授業形式	講義
教員名	藤平 郁子	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	保育者論		
授業の概要	保育者論とは何か 保育者の専門性を学ぶ 保育者の役割と責任・保育者の制度的位置づけを学び、自分の目指す保育者像を探究する		
授業の到達目標 (ねらい)	保育者の役割、責任を知る 社会に求められる保育者の専門性を学ぶ		
授業計画	1. 保育者になるということの意義と使命		
	2. 保育者とは何か		
	3. 子ども観・保育観		
	4. 子ども理解と視点		
	5. 保育を創る感性		
	6. 保育者の役割と仕事		
	7. 保育者の資格		
	8. 幼稚園における保育者		
	9. 保育所における保育者		
	10. 保育の実践・環境		
	11. 保育の記録		
	12. 保育者の視点と評価・省察		
	13. 保育の協働		
	14. 子どもを守る権利と支援		
	15. 子どもに「寄り添う」保育者		
評価方法	定期試験		
テキスト *必ず購入	購入せず(講師作成のプリントを使用)		
参考書 *必要に応じ購入	・保育所保育指針解説・幼稚園教育要領解説 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 ₂₅ 保育学はじめの一步		

科目名	モンテッソーリ教育概論	授業形式	演習
教員名	丸木 佳里	授業区分	選必
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	・モンテッソーリ教育についての導入 ・モンテッソーリ教育に興味を持つ ・モンテッソーリ教育の活動を体験する		
授業の概要	・モンテッソーリ教育理論 ・モンテッソーリ教育実践の紹介 ・モンテッソーリ活動の紹介 ・海外のモンテッソーリ環境の紹介 ・質疑応答		
授業の到達目標 (ねらい)	1. モンテッソーリ教育について知る 2. モンテッソーリ教育に興味を持つ 3. モンテッソーリ教育の活動を体験する		
授業計画	1. モンテッソーリってなに？		
	2. マリア・モンテッソーリ博士の生涯／日本への普及		
	3. 吸収する精神／敏感期とは		
	4. モンテッソーリ教育的関わり		
	5. 自由と制限		
	6. 感覚の洗練日		
	7. 質疑応答(前半)		
	8. 発達の四段階		
	9. 大人の準備と役割		
	10. 保護者対応の実例		
	11. 精神的逸脱と正常化①		
	12. 精神的逸脱と正常化②		
	13. 観察		
	14. 質疑応答(後編)		
	15. まとめ		
評価方法	・毎回提出必須のレポート内容 ・レポート内の質問や考察からの授業態度 ・授業参加状況		
テキスト *必ず購入	毎回配布のプリント		
参考書 *必要に応じ購入	なし		

科目名	フレール教育概論	授業形式	
教員名			
年次配当			
授業表題	今年度は開講しません。		
授業の概要			
授業の到達目標 (ねらい)			
授業計画			
評価方法			
テキスト *必ず購入			
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	キリスト教保育	授業形式	講義
教員名	小山 正弘	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	キリスト教保育について知り、「感じる」。また、感じたことを「伝え合う」		
授業の概要	①講義(聖話・映像等含む) ②体を動かすことあり。(動きやすく多少汚れてもよい靴・服装をお願いします) ③グループ・ディスカッション等 ④「小さなレポート」を書いて、翌週提出の予定		
授業の到達目標(ねらい)	①自分が、保育士(幼稚園教諭)として、子どもの前にいるイメージを思い浮かべることができる。 ②やりがい・喜びがあることを感じ、保育士になる希望が強まる。 ③自分に与えられているものを生かしながら、目的に向かっていこうと思える。 ④聖書に馴染み、自分のお気に入りとなる聖句に出会う。		
授業計画	1. 「オリエンテーション」と、「自己紹介を兼ねて…」		
	2. 「キリスト教保育って何ですか？」と聞かれて		
	3. 「聴く」というこ		
	4. 「礼拝」「祈り」について		
	5. 「かみさまへのてがみ」を読んで		
	6. 「保育計画」と「行事Ⅰ」		
	7. 「行事Ⅱ」		
	8. 「行事Ⅲ」		
	9.「行事Ⅳ…クリスマス(1)」		
	10.「行事Ⅳ…クリスマス(2)」		
	11.「多様な保育」 他国の文化・障害児保育等		
	12.「保護者とともに」「親支援」		
	13.「先生の影響」		
	14.これまでの「授業の振り返り」と「まとめ」		
	15.最後に…「こんな先生に」		
評価方法	・出席率・授業態度30%、レポート内容(毎回の「小さなレポート」・最後の「レポート」)70%		
テキスト *必ず購入	・『聖書』（新・旧約聖書が1冊になっているものが望ましい。） ・『キリスト教保育指針』(2024年版) キリスト教保育連盟 税込み1,375円		
参考書 *必要に応じ購入	・『愛と祈りで子どもは育つ』(PHP 渡辺和子著) 税別 640円 (任意です。興味が持てる場合は、あると良いと思います)		

科目名	保育の心理学	授業形式	講義
教員名	柳生崇志	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	乳幼児の心身の発達理解		
授業の概要	子どもの心身の発達が保育場面における生活や遊びの中でどのように育まれるのかを学び、その発達過程を理解し支援するための知識や方法を習得する。テキスト、スライド、映像教材などを用いながら、各回の授業で設定された課題(実演、ロールプレイング、ディスカッション、小レポートなど)に取り組む。各種実習および就職において実際に子どもと接した時に、子どもの発達の状態や過程が理解でき、適切な支援を行うための基礎力を身につけ、その力を発展させるために主体的に考え学び続けようとする態度を形成する。		
授業の到達目標(ねらい)	1. 乳幼児の心身の発達や保育実践に関わる心理学的知識を身につけ、個に応じた保育を考えて実践する力をつける。 2. 生涯発達の観点から発達過程や初期経験の重要性について理解する。 3. 乳幼児の心身の発達を理解する方法がわかる。		
授業計画	1. オリエンテーション(受講案内)、生涯発達心理学の基礎：ライフサイクルと発達課題		
	2. 胎児期・乳児期の発達：身体運動の発達と社会性の芽生え		
	3. 幼児期の発達①：身体運動発達		
	4. 幼児期の発達②：認知発達		
	5. 幼児期の発達②：社会性の発達		
	6. 児童期から青年期の発達：社会性・道徳性の発達と知識の獲得		
	7. 学習理論の基礎：行動的アプローチと認知的アプローチ		
	8. 学習の動機づけ：内発的動機づけと外発的動機づけ		
	9. 個性と個人差：知能、認知、パーソナリティ		
	10. 学習指導：プログラム学習と発見学習		
	11. 問題解決と推理：認知処理過程と記憶表象		
	12. 測定と評価：心理検査(性格検査、発達検査、知能検査)と評価法		
	13. 発達課題に応じた援助とかわり		
	14. 乳幼児の心身の発達のまとめ		
	15. 全体の振り返り、各種課題・テスト等のフィードバック		
評価方法	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)		
テキスト *必ず購入	井梅由美子・渡辺千歳編著、『はじめて学ぶ心理学』。大学図書出版。		
参考書 *必要に応じ購入	必要に応じて授業時に案内します。		

科目名	臨床心理学	授業形式	演習
教員名	柳生 崇志	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	幼児教育・保育に役立つ臨床心理学概論		
授業の概要	本演習では、臨床心理学の成り立ちを理解しながら、いくつかの代表的な心理療法の理論と実際を学ぶ。臨床心理学と心理療法の、その時代や地域が抱える諸問題と向き合い、支援し、解決することを目指しながら発展を遂げ、現在ではその対象となる問題は、医療や教育、保育、産業等の幅広い領域となってきた。さまざまな臨床現場でどのような理論や実践が展開されているのかを考えながら、とくに幼児教育・保育の現場が抱える課題に取り組むための臨床心理学的方法について、各種ロールプレイやアクティビティを通して学ぶこととする。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 臨床心理学の基礎的知識を理解する。 2. 幼児教育・保育の領域における具体的事例について理解し、基本的な技法を用いることができる。		
授業計画	1. オリエンテーション(受講案内)、臨床心理学とは何か？ 2. 臨床心理学の成り立ち 3. 心理療法① 精神分析理論 4. 心理療法② クライアント中心療法 5. 心理療法③ 認知行動療法(1) 6. 心理療法④ 認知行動療法(2) 7. 心理療法⑤ その他の心理療法 <小テスト①(心理療法)> 8. アセスメントの理論と技法① 9. アセスメントの理論と技法② 10. アセスメントの理論と技法③ <小テスト②(アセスメント)> 11. 発達臨床心理学① 発達障害 12. 発達臨床心理学② 精神障害 13. 発達臨床心理学③ 教育相談とスクールカウンセリング <小テスト③(発達臨床心理学)> 14. 臨床心理学と心理療法のまとめ 15. 全体の振り返り、各種課題・テスト等のフィードバック		
評価方法	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)		
テキスト *必ず購入	スーザン・レウェリン, ケイティ・アフエスーヴァン・ドーン著, 下山晴彦 編訳. (2019). 『臨床心理学入門』. 東京大学出版会.		
参考書 *必要に応じ購入	必要に応じて授業時に案内します。		

科目名	子ども家庭支援の心理学	授業形式	演習
教員名	柳生崇志	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	子ども家庭支援の心理学		
授業の概要	本講義では、子どもの発達に関する心理学的な知見を学ぶ。 子どもの発達は家庭や社会の中でダイナミックに変化する。 子どもと家族・家庭との関係について生涯発達の視点から深く学び、子どもの育ちを支える家庭や社会のさまざまな問題について検討する。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 生涯発達に関する基礎的な知識を獲得し、乳幼児期の経験や発達課題等について理解する。 2. 親子関係や家族関係等について発達の観点から考え、家族・家庭の意義や機能を理解する。 3. 子どもと家庭をとりまく社会的状況と課題について考え、理解する。 4. 子どもの心の健康の問題がわかる。		
授業計画	1. オリエンテーション(受講案内)、親子関係・家族関係と生涯発達の考え方		
	2. 乳幼児期の子どもの発達と家庭		
	3. 児童期の子どもの発達と家庭		
	4. 青年期以降の発達と家庭 <小テスト①(生涯発達と家庭の関係)>		
	5. 家族・家庭の意義と機能		
	6. 親子関係・家族関係の理解		
	7. 子育て家庭をとりまく社会的状況と課題 <小テスト②(家族・家庭の理解)>		
	8. ライフコースと仕事・子育て		
	9. 多様な家庭とその理解		
	10. 発達支援が必要な子どもと家庭の理解		
	11. 子どもの生活・生育環境とその影響 <小テスト③(子育て家庭に関する現状)>		
	12. 子どもの心の健康問題		
	13. 災害、事故、事件と子どもの心の問題		
	14. 「子ども家庭支援の心理学」全体のまとめと振り返り		
	15. 子ども家庭支援をめぐる現代の社会的状況と課題		
評価方法	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)		
テキスト *必ず購入	大倉得史・新川泰弘 編著. (2020). 『子ども家庭支援の心理学入門』. ミネルヴァ書房.		
参考書 *必要に応じ購入	必要に応じて授業時に案内します。		

科目名	子どもの理解と援助	授業形式	演習
教員名	柳生崇志	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	子どもの理解と援助		
授業の概要	本演習では、子どもをよりよく理解し、適切な援助が行えるようになるための基本的な知識や方法を学ぶ。 なぜ、個に応じた援助が必要なのか、どのようにすれば子ども一人一人の発達の様子や体験・学びの様子を理解できるのかということについて、保育現場の事例を検討する。 各回の授業内容やテーマに応じて、ロールプレイング、ディスカッション、ディベートゲーム等を通して体験的に学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 子どもを理解することの意義と基本的態度を理解する。 2. 子どもを理解するためのさまざまな視点がわかる。 3. 観察・記録・評価などの子どもを理解するための具体的方法がわかる。		
授業計画	1. オリエンテーション(受講案内)、保育における子どもの理解とは？ 2. 子どもの理解に基づく保育の展開 3. 子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり <小テスト①(子どもの発達や学びの把握)> 4. 子どもの生活や遊び 5. 保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 6. 集団の中の子どもの育ち 7. 葛藤やつまづき 8. 保育の環境の理解と構成 9. 環境の変化や移行 <小テスト②(子どもを理解する視点)> 10. 子どもを理解するための方法：観察、記録、省察、評価 11. 職員間、保護者との対話 12. 発達の課題に応じた援助と関わり 13. 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 <小テスト③(子どもを理解する方法と援助)> 14. 「子どもの理解と援助」全体のまとめと振り返り 15. 発達の連続性と就学への支援		
評価方法	期末試験および授業中に課す各種課題による総合評価 総合評価(成績) = 期末試験(50%) + 各種課題・小テスト(複数合計40%) + 受講態度(10%)		
テキスト *必ず購入	松本峰雄 監修, 伊藤 雄一郎 他著. (2021). 『子どもの理解と援助 演習ブック』. ミネルヴァ書房.		
参考書 *必要に応じ購入	必要に応じて授業時に案内します。		

科目名	子どもの保健	授業形式	講義
教員名	畠山 聡子	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	子どもの保健について学習する。		
授業の概要	本授業では、子どもの健康を理解するために必要な発育・発達、生理機能、健康状態の把握について学ぶ。さらに、母子保健や子どもの病気、アレルギーなどについて理解を深める。これらを通して、保育における健康観察と保健的対応の基礎を身につける。		
授業の到達目標 (ねらい)	子どもの身体的特徴やよくみられる症状・疾患等について、基礎的知識を理解する。 保育における保健活動の役割と重要性を理解する。		
授業計画	1. オリエンテーション 子どもの健康と保健の意義 健康の概念を理解し、保健活動の意義と内容について学ぶ。		
	2. 子どもを取り巻く環境、虐待防止について 子どもの健康に関する現状と課題、虐待防止の取り組みについて学ぶ。		
	3. 母子保健① 妊娠、胎児の発育について学ぶ。		
	4. 母子保健② 出産、新生児の特徴を学び、母子保健の意義について考察する。		
	5. 身体の発育・発達① 正しい身体測定方法、発育の評価の仕方について学ぶ。		
	6. 身体の発育・発達② 子どもの生理機能の特徴を学ぶ。		
	7. 子どもの健康状態の把握① 健康状態の評価と保護者との情報共有について理解する。		
	8. 子どもの健康状態の把握② 体調不良時によくみられる症状について学び、対応方法を習得する。		
	9. 子どもの病気① 子どもの免疫、感染症について学ぶ。		
	10. 子どもの病気② 感染症の予防と対応を学ぶ。		
	11. 子どもの病気③ 救急疾患の特徴を理解し、適切な対応を学ぶ。		
	12. 子どもの病気④ 子どもの慢性疾患について学ぶ。		
	13. 子どもの病気⑤ アレルギー疾患、予防接種について学ぶ。		
	14. 子どもの保健のまとめと振り返り		
	15. 全体の総括		
評価方法	学期末試験、授業内小テスト、提出物、授業態度を総合的に評価する。		
テキスト *必ず購入	保育者のためのわかりやすい 子どもの保健 第2版 監修:飯島一誠(総合医学社)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	子ども食と栄養	授業形式	講義・演習
教員名	櫛木祥子	授業区分	必修
年次配当	2年次通年	単位数	2単位
授業表題	食の重要性を理解し、子どもの「食を営む力」の育成に必要な知識を身につける		
授業の概要	乳幼児期から思春期の食習慣・栄養摂取の状態が、生涯にわたる食習慣や健康の礎になることを理解し、望ましい食生活のあり方に関する知識を学ぶ。また、子供に食の楽しさ・大切さを伝える力を身につける。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 食と栄養に関心を持ち、基礎知識をしっかり身につける 2. 自分自身の食生活の重要性を理解し、適切な食生活を営めるようになる。 3. 子どもが食に興味をもち、しっかりした食習慣を身につけることを促す方法を考える		
授業計画	1. 子どもの健康と食生活の意義	16. 乳幼児の食と栄養①	
	2. 栄養に関する基礎①	17. 乳幼児の食と栄養②	
	3. 栄養に関する基礎②	17. 乳幼児の食と栄養②	
	4. 栄養に関する基礎③	18. 乳幼児期の食と栄養③	
	5. 栄養に関する基礎④	19. 学童期・思春期の食と栄養①	
	6. 栄養に関する基礎⑤	21. 学校給食	
	7. 栄養に関する基礎⑥	22. 特別な配慮を必要とする子どもの食と栄養	
	8. 食品の性質①	23. 調理の基礎③	
	9. 食品の性質②	24. 調理の基礎④	
	10. 食品の性質③	25. 調理の基礎⑤	
	11. 調理の基礎①	26. 食育①	
	12. 調理の基礎②	27. 食育②	
	13. 前期のまとめ①	28. 食育③	
	14. 前期のまとめ②	29. 後期のまとめ①	
	15. 食品の性質④	30. 後期のまとめ②	
評価方法	期末試験60%・小テスト20%・授業へのとりくみ(レポート・課題)20%		
テキスト *必ず購入	子どもの食生活 《第6版》 ななみ書房		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育の計画と評価	授業形式	講義
教員名	島田 里香	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	保育の計画と評価		
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、保育内容の充実に向けての保育の計画と評価について理解する。教育課程及び全体的な計画、指導計画の編成について基本的な考え方を理解し、指導案の計画、実践、評価、改善を体験的に学び、実践に生かす。		
授業の到達目標 (ねらい)	・「教育課程」・「全体的な指導」と指導計画について理解する。 ・幼稚園、保育所、認定こども園における保育の計画の作成と展開について理解を深める。 ・幼稚園、保育所、認定こども園における保育の評価について理解する。 ・指導計画を踏まえ、幼児理解や保育者の援助について実践力を身につける。		
授業計画	1. 保育の基本と計画(オリエンテーション)		
	2. 教育課程、全体的な計画について		
	3. 指導計画について		
	4. 幼稚園における教育課程と指導計画について		
	5. 保育所における全体的な計画と指導計画について		
	6. 認定こども園における全体的な計画と指導計画について		
	7. 指導計画の作成の基本と方法について		
	8. 指導計画の立案①		
	9. 指導計画の実践と評価		
	10. 保育における評価について		
	11. 指導計画の立案②		
	12. 指導計画の立案③		
	13. 指導計画の実践、評価、改善①		
	14. 指導計画の実践、評価、改善②		
	15. 授業内容の再確認とまとめ		
評価方法	①授業参加状況(積極性や協調性等)(40%) ②定期試験(40%) ③授業課題のレポートの提出(20%)		
テキスト *必ず購入	・「教育課程・保育の計画と評価 書いて学べる指導計画」岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正著 萌文書林 ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育内容総論	授業形式	演習
教員名	簗輪 進司	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	保育内容の各論で学んだことを総括し、保育者として子どもたちの遊びや生活を支えるためにすべきことを、事例や実践から理解し考察する。また、保育者の役割と具体的援助など、その専門性への理解を促し、保育者の役割と具体的援助など、その専門性への理解を促す。		
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育の基本と構造を理解し、「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容5領域の関連を総合的に捉え、子どもの発達や実態に即した保育の展開を学ぶ。併せて、保育関係法令の歴史的変遷を知り、保育におけるカリキュラムの構成を理解し、「環境を通して行う保育」「遊びによる総合的な保育」について、他者との共有を行いながら考察を深める。		
授業の到達目標 (ねらい)	1.「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と保育内容5領域を総合的に理解する。 2.保育内容の歴史的変遷を知り、各章の理解を深めながら保育の全体像をとらえる。 3.各発達年齢の保育内容の具体的理解を図り、子どもが健やかに育つために必要とする体験や活動を考察する。 □ 4.子ども主体の保育の意義を理解し、保育場面を想定した指導計画を立案する力を身に付ける。 5.子どもの発達や学びの連続性を理解し、子ども・保護者・保育者の立場から専門機関との連携の重要性を理解する。 □ □		
授業計画	1.授業オリエンテーション 保育内容総論で学ぶこと		
	2.保育内容の歴史的変遷		
	3.幼稚園・保育所・認定こども園の一日		
	4.現代に求められる保育の基本と保育内容		
	5.環境を通して行う保育		
	6.遊びを通しての総合的指導		
	7.遊びの中心の保育をデザインする		
	8.子ども理解に基づく評価		
	9.家庭や地域との連携と保育内容 ・幼小連携接続を踏まえた保育		
	10.保育の基本を踏まえた保育内容の展開 ①領域「健康」の視点から		
	11.保育の基本を踏まえた保育内容の展開 ②領域「人間関係」の視点から		
	12.保育の基本を踏まえた保育内容の展開 ③領域「環境」の視点から		
	13.保育の基本を踏まえた保育内容の展開 ④領域「言葉」の視点から		
	14.保育の基本を踏まえた保育内容の展開 ⑤領域「表現」の視点から		
	15.授業の振り返り		
評価方法	1. 授業中の態度(20%) 2. 授業中の小テスト振り返りカード(40%) 3. 期末試験(40%)		
テキスト *必ず購入	『子ども中心の実践に学ぶ「保育内容総論」』清水洋子、新井美保子、吉田真弓 編著(2023) 建帛社		
参考書 *必要に応じて購入	必要に応じて授業中に紹介する		

科目名	健康指導法	授業形式	演習
教員名	高橋 裕勝	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	乳幼児の生活や遊びと領域「健康」		
授業の概要	本授業は、乳幼児の生活習慣や心身の発達について、「幼稚園教育要領」等にある領域「健康」と関連づけて学ぶ。 その上で、子どもの身体を育む生活や運動遊びについて、具体的な保育の実践方法を学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	・乳幼児の健康や安全な生活に関する基礎的事項について概説できる。 ・領域「健康」の意義、ねらい及び内容、内容の取り扱いについて概説できる。 ・子どもの身体を育む生活や運動遊びについて、具体的な保育を構想できる。		
授業計画	1. ガイダンス 授業概要、評価方法		
	2. 健康とは何か 健康で安全な生活、幼児期の生活、身体をよく動かす子ども		
	3. 身体の発育・発達 形態的発育、生理的機能の発達		
	4. 運動発達と環境 0歳児から3歳未満児、3歳以上児		
	5. 運動遊びへの関わり 保育者の関わり、運動が苦手な子ども、社会性の発達		
	6. 運動能力の現状 幼児の運動能力、発達に影響を及ぼす要因		
	7. けが・事故の実態 死亡事故、負傷の場所、遊具での負傷、負傷の部位		
	8. けがの予防と安全管理 リスクとハザード		
	9. 生活習慣の形成 0歳児から3歳未満児、3歳以上児		
	10. 遊びと運動 豊かな遊びと動きの体験、クラスの活動、日常生活		
	11. 生活と食 生活リズムと食、食と保育		
	12. 領域「健康」の理解 意義、ねらい及び内容、内容の取り扱い		
	13. 指導案の作成 保育を構想し指導案を作成する		
	14. 模擬保育 作成した指導案をもとに模擬保育をおこなう		
	15. まとめ 復習と総括		
評価方法	定期試験(50%)、課題(30%)、授業への積極的な取り組み(20%)		
テキスト *必ず購入	『演習 保育内容 健康 ー基礎的事項の理解と指導法ー』 河邊貴子 吉田伊津美 編著 建帛社		
参考書 *必要に応じ購入	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)幼稚園教育要領解説(文部科学省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)保育所保育指針解説(厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(内閣府)		

科目名	人間関係指導法	授業形式	演習
教員名	島田 里香	授業区分	必修
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	人間関係指導法		
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」の内容を踏まえ、乳幼児期の保育における人とかかわりを育むための保育内容や保育者の関わりについて実践的に理解する。		
授業の到達目標 (ねらい)	・乳幼児期の特性を踏まえ、保育における領域「人間関係」の意義、ねらい、内容を理解する。 ・保育の中で子どもが人と関わることによって育まれる力について理解すると共に、保育者の関わりや役割について実践事例等を通して理解する。		
授業計画	1. オリエンテーション 2. 領域「人間関係」のねらい・内容等について理解する。 3. 乳児期における人とかかわりと保育者の援助について理解する。 4. 1歳～3歳未満児の人との関わりと保育者の援助について理解する。 5. 3歳児における人との関わりと保育者の援助について理解する。 6. 4歳児の人との関わりと保育者の援助について理解する。 7. 5歳児の人との関わりと保育者の援助について理解する。 8. 遊びの中での人とかかわりについて理解する。－ルールのある遊びを通して－ 9. 遊びの中での人とかかわりについて理解する。－イメージを共有する遊びを通して－ 10. 遊びの中での人とかかわりについて理解する。－いざこざ・葛藤を通して－ 11. 遊び環境の工夫について理解する。 12. 保育における遊びの中で育まれる人間関係について事例分析・考察する。 13. 保育における遊びの中で育まれる人間関係について事例分析・考察する。 14. 保護者と保育者の人間関係について理解する。 15. 授業内容の再確認とまとめ		
評価方法	①授業参加状況(積極性や協調性等)(40%) ② レポート(60%)		
テキスト *必ず購入	・領域「人間関係」乳幼児期にふさわしい生活で育む 河合優子・大澤洋美・佐々木晃編著 ミネルヴァ書房 ・幼稚園教育要領 ・保育所保育指針 ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	環境指導法	授業形式	演習
教員名	原田 恵理	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	乳幼児時期の「遊びこむ」環境について、人的・物的、環境構成、様々な角度から考え、学びを深める。		
授業の概要	保育内容の領域の一つである「環境」のねらい及び内容を踏まえ、環境の特性を明らかにする。子どもが身近な環境とかかわることでのような力が育つのかを考え、そのための保育者の援助の在り方について学ぶ。「遊び」の価値について十分に考察し、環境素材の教材化などを具体的にを行い、乳幼児期の「遊びこむ」を保証する環境作りについて実践的に理解していく。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 領域「環境」に関する知識を習得する。 2. 領域「環境」のねらい及び内容について理解する。 3. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解し、領域「環境」のねらい及び内容に即した具体的な指導場面を想定した保育を構想することができるようになる。 4. 様々な環境素材を保育教材化する方法を身につけ、保育における環境と子どもとの関わりについて理解する。		
授業計画	1. 初回ガイダンス 幼稚園・保育園の教育の基本と「環境」 2. 子どもの園生活における遊びと環境の関わり 3. 環境を通した保育における子どもの育ち 4. 遊環境の基本的な考えについて 5. 遊環境を考慮した園庭環境について 6. 環境との関わり安全について 7. 自然物を用いた保育環境について 8. 環境を通した保育の実例 年中行事・地域との関わり 9. 保育におけるメディアと情報機器を含む情報環境素材と活用法 10. 指導案の構造理解と作成 自然・動植物との関わり 11. 指導案の構造理解と作成 数量・図形・文字等の関わり 12. 模擬保育準備 環境素材の教材化のための調査と教材作成 13. 模擬保育準備 指導案(環境構成図欄を中心に)の作成と教材作成 14. 模擬保育実践 15. 模擬保育の評価と振り返り		
評価方法	試験・・・・・・・・・・60% 授業態度・・・・・・・・・・20% リアクションペーパー・提出課題・・・20%		
テキスト *必ず購入	実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法 わかば社		
参考書 *必要に応じ購入	「幼稚園教育要領解説」文部科学省 「保育所保育指針解説」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省		

科目名	言葉指導法	授業形式	演習
教員名	小林 恵	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	乳幼児の言葉を豊かに育むための保育者としての実践力を身につける		
授業の概要	保育現場において、子どもたちが様々な言葉教材に親しみながら豊かな言葉やイメージが広がり育まれるような環境のあり方や模擬保育に向けた具体的な指導方法について研究し実践力がつくようにする。 子どもの発達に即した領域「言葉」のねらいや内容を踏まえた保育実践力を養うことを目指すために、具体的な事例や映像などを使用し、理解を深める。		
授業の到達目標 (ねらい)	子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえたうえで、言葉の意義について捉え、乳幼児の言葉の獲得過程を理解し、言葉の育ちを支える保育者としての意義について理解を深め、保育実践力を養う。 また、乳幼児の豊かな言葉が育まれる保育教材を研究し、具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につける。		
授業計画	1. 子どもの言葉が豊かに育つための保育者の援助とは 2. 乳幼児期の特徴・言葉の発達過程について～映像資料や事例を通して、幼児の姿について理解を深める～ 3. 指導者として幼児の言葉環境に必要な心得や準備～具体的にどのようなことか事例をもとに考える～ 4. 乳幼児を対象とする「手遊び」の種類・特徴・子どもに与える効果 5. 乳幼児を対象とする「紙芝居」の種類・特徴・子どもに与える効果 6. 乳幼児を対象とする「絵本」の種類・特徴・子どもに与える効果① 7. 乳幼児を対象とする「絵本」の種類・特徴・子どもに与える効果② 8. 絵本の読み聞かせの実践① 9. 絵本の読み聞かせの実践② 10. 乳幼児を対象とする「ペープサート」、「エプロンシアター」の種類・特徴・演じる際の留意点 11. 乳幼児を対象とする「パネルシアター」、「素話」の種類・特徴・演じる際の留意点 12. 言葉に対する感覚を豊かにする保育①(さまざまな言葉遊びについての研究と実践Ⅰ) 13. 言葉に対する感覚を豊かにする保育②(さまざまな言葉遊びについての実践Ⅱ) 14. 現代社会と言葉～言葉を育む環境の変化～ 15. まとめ(これまでの授業内容の振り返り)		
評価方法	定期試験(60%)、受講態度、個人発表、課題提出(40%)から総合的に評価する		
テキスト *必ず購入	子どもの育ちを支える 子どもと言葉 浅見 均編著 大学図書出版		
参考書*必要 に応じ購入			

科目名	表現指導法	授業形式	演習
教員名	吉川和希	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	子どもの表現について考え、具体的な計画や教材、援助などについて学ぶ。		
授業の概要	・ 幼児の実態や教科書等から、子どもの表現について考える。具体的な子どもの姿を想定し、実際に現場で用いられている素材や道具などを、子どもの目線で体験しながら学ぶ。 ・ 活動の具体的な状況や幼児の姿をイメージしながら、必要なモノ・イメージ・時間・場・保育者の援助等を、テキストや事例から考えたり、実践したりする。 ・ 教材を使って実際に子どもが活動する際や、活動によってあらわれる幼児の動き・表現を予想して、保育者の援助を考える。		
授業の到達目標 (ねらい)	・ 幼児の実態や教科書等から子どもの表現を捉える。 ・ 保育の具体的な状況をイメージしながら、教材研究をしようとする。 ・ 子どもが表現あそびや表現活動をする際の環境の構成、教師の援助について考える。 ・ 学生自らが、自分の思いや考えを表し、表現しようとする。		
授業計画	1. オリエンテーション 子どもの表現とは何かを考える。		
	2. 描画・造形表現① <講義・演習> テキストを通して学ぶ。3歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。		
	3. 描画・造形表現② <講義・演習> テキストを通して学ぶ。4歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。		
	4. 描画・造形表現③ <講義・演習> テキストを通して学ぶ。5歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。		
	5. 描画・造形表現④ <講義・演習> テキストを通して学ぶ。5歳児を想定した教材を、実際に使って製作する。		
	6. 表現の場としての行事と学び②<演習> 作ったものを身につけたりなりきったりして、劇遊びを体験する。		
	7. 表現の場としての行事と学び①<講義> テキストを通して学ぶ。		
	8. 感覚を通して表現を楽しむ <演習> 小麦粉粘土を通して、教材作りや、感触を味わう経験をする。		
	9. 振り返り・まとめ <レポート> これまでの学びを振り返り、自分の考えを表す。		
	10. 音楽表現① <講義・演習> テキストを通して学ぶ。発達に合った歌遊び・手遊びを実践する。		
	11. 音楽表現② <講義・演習> テキストを通して学ぶ。声や気持ちを共有する活動の様子を、事例を通して知る。		
	12. 身体表現③ <講義・演習> テキストを通して学ぶ。身体表現の創作を行う。		
	13. 実習に向けた準備・心構え・フェルト名札の作成<講義・演習>		
	14. フェルト名札の作成 <演習>		
	15. 子どもの表現と保育者の援助 <講義> 保育者の援助を、人的環境の視点から考える。		
評価方法	指導案・作品提出(40%)、 レポート(20%)、 授業への参加態度(40%)		
テキスト *必ず購入	表現 日々わくわくを生きる子どもの表現(わかば社)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	表現活動指導法A	授業形式	演習
教員名	千歳 博紀	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	保育における音楽・造形・言葉・身体表現を身につける		
授業の概要	オリジナルの物語でミュージカルを制作し、発表する。その経験を通して表現力を養い、創造性を豊かにする。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 豊かな感性、表現力、創造性を養う。 2. 他者との関わりの中で協調性を持ち、一つの作品を作りあげる。 3. ミュージカルの制作方法を知る。		
授業計画	1. オリエンテーション ミュージカルができるまでの過程や役割を考え、スケジュールを計画する。発表の題材になる物語や歌を探る。		
	2. 題材選定① 題材の候補を絞る。グループであらすじや設定を考える。		
	3. 題材選定② グループで考えたあらすじや設定を発表し、実現したい題材に投票をする。確定した題材の設定を深める。		
	4. 配役・係決め 準備段階における役割を決定し、係ごとに制作をはじめる。		
	5. 制作と表現① 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	6. 制作と表現② 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	7. 制作と表現③ 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	8. 制作と表現④ 監督・脚本・音楽・振付・小道具・衣装が連携をとりながら制作を行う。		
	9. 立ち稽古① 演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	10. 立ち稽古② 演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	11. 立ち稽古③ 演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	12. 立ち稽古④ 本番での役割を決める。演技・歌・合奏・ダンスの練習する。		
	13. リハーサル 衣装・小道具・大道具を用いて練習する。		
	14. ゲネプロ(通し稽古) 本番同様のゲネプロを行う。ゲネプロの映像を鑑賞し、改善を行う。		
	15. まとめ(本番) アルウィン祭で上演する。演習を通じて学んだことを共有する。		
評価方法	創作への参加(70%)、パフォーマンスの評価(30%)		
テキスト *必ず購入	プリント(適宜配布する)		
参考書 *必要に応じ購入	なし		

科目名	表現活動指導法B	授業形式	演習
教員名	橋本 夏夫	授業区分	選必
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	造形・描画などの実践を通して学生個々の表現の幅を広げ、子どもへの指導方法を学ぶ。 また、子どもと遊ぶために知っておきたい知識を身に着ける。		
授業の概要	本授業では、単に表現技術を習得するだけではなく、その技術や知識が子どもと共有する世界のどこに繋がっていくのかを考えて、実際の保育での活用方法を学びます。		
授業の到達目標 (ねらい)	子どもの意欲的な活動を引き出す方法や作品に現れた子どものこころの姿を感じ取れる力を養います。 また、生活の中の芸術性について考え、制作や描画の実践を通して子どもと時間を共有する方法や、子どもが持っている力を引き出す力を身に付けます。グループワークを通して他者との関係づくりや協働について学びます。		
授業計画	1. ガイダンス 子どもと遊ぶために知っておきたいこと。身近な素材で表現する・新聞紙遊び1・跳ね上げ遊びとキャッチボール・新聞紙遊び2・びりびり破きと積み上げ遊び。 2. 新聞紙遊び3・身体を包んで遊ぶ（何かになりきるといふ子どもの持つ変身への願望を新聞紙で表現する） 3. 新聞紙遊び4・新聞紙で野菜を作る（柔軟性のある素材としての新聞紙で表現する） 4. 目に見えない素材で表現する・空気について知る。（ポリ袋で大きな風船をつくって飛ばそう1.） 5. 目に見えない素材で表現する・（ポリ袋で大きな風船をつくって飛ばそう2.） 6. 折り紙をつなげて遊ぶ・折り紙、澱粉糊、ハサミを使った表現・壁面制作につながる表現 7. 講義:子どもの絵の発達段階を学ぶ・子どもの絵に現れる特徴を理解する。講義プリント配布 8. トーナッツふたつ・（興味のあるものを題材とした描画・クレヨンと水性絵の具の使い方） 9. 講義:自然物を使った制作のために知っておきたいこと。地球の歴史と樹木について 10. ドングリを使ってオブジェやリースを制作する。 11. 透明な素材を使った表現（写し取りで人物の表情を描く。素材を感じながら表現方法の幅を広げる。） 12. 講義:(復習)子どもの絵の発達段階を学ぶ・子どもの絵に現れる特徴を理解する。(到達度の確認) 13. 振り返り(子どもと遊ぶために知っておきたいこと)振り返りプリント配布 14. ※筆記(子どもの絵の発達段階) 15. グループワーク、折り紙10種		
評価方法	まとめの筆記、提出物、授業への取り組み、欠席日数の総合評価		
テキスト *必ず購入	毎回プリントを配布する。講義には別途講義用プリントを配布する。		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	音楽Ⅰ(理論)	授業形式	講義
教員名	藤岡 郁子	授業区分	選必
年次配当	1年次前期	単位数	2単位
授業表題	子どもたちに豊かで正しい音楽の指導できるように基礎理論を学ぶ		
授業の概要	幼稚園教諭や保育士を目指す者にとって不可欠な理論の基礎知識を習得するために、毎回復習のための小テストを行いながら理解を深めていく。楽譜が直ぐに読めることを目標に、学んだ理論を音楽Ⅱ、幼児と音楽A・幼児と音楽Bでも活かせるように連携して授業を進めていく。		
授業の到達目標(ねらい)	1. 子どもたちにうたや合奏を教えるため、またピアノ伴奏をするために必要な基本的理論を学ぶ。 2. リズムや音楽理論の基礎を学ぶことによって、実際の保育現場で余裕を持って演奏できるようにする。 3. 4種類の調の音階とカデンツを理解し、コードを使って簡単な伴奏付けができるようにする。		
授業計画	1. これからの授業についての説明 直ぐに音符がよめるように、よく知っている曲で譜読みの練習をする		
	2. 譜読みの練習を続けながら、音符や休符の長さを覚える①		
	3. 譜読みの練習を続けながら、音符や休符の長さを覚える②		
	4. 拍子(単純拍子、複合拍子)を理解する		
	5. 変化記号(♯ ♭)等の音を変化させる記号を覚える		
	6. 強弱記号の名称や意味を理解する		
	7. 反復記号と略記の名称や意味を理解する		
	8. 奏法を指示する記号の名称や意味を理解する①		
	9. 速度記号と速度を変化させる記号を覚える		
	10. 奏法を指示する記号の名称や意味を理解する②		
	11. 長音階と短音階を理解する		
	12. ハ長調のコード+7の和音を理解する		
	13. 他の調(ト、ニ、ヘ長調)のコード+7の和音を覚える		
	14. 簡単なコードの童謡に伴奏をつける		
	15. 授業内容の確認と振り返り、まとめ		
評価方法	授業の参加状況(30%)及び定期試験(70%)		
テキスト *必ず購入	「ジュニアクラスの楽典問題」(森本琢郎・池田恭子共著)ドレミ楽譜出版社		
参考書 *必要に応じ購入	プリント配布		

科目名	音楽Ⅱ(声楽)	授業形式	演習
教員名	藤岡 郁子	授業区分	選必
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	正確な音程で、いつでも歌える子どものうたのレパートリーを増やす		
授業の概要	基本的な発声法や歌唱法を学び、アカペラでも正しいリズム、音程で、子どものうたを歌えるようにする。 へ音記号で書かれた新曲を歌い、へ音記号に対する苦手意識を取り除き、音が直ぐに読めるようにする。 正確なリズムが取れるように、毎週のグループ発表で学ぶ。 優れたオペラやミュージカルを鑑賞することによって感性をみがく。		
授業の到達目標(ねらい)	1. 幼稚園や保育園でよく歌われる行事や季節のうた、子どものうた、新しいうたについて、自らが歌う経験を積む。 2. いつでも、どこでもうたえる曲を増やし、保育の現場で活用できる力を養う。 3. 歌うことの楽しさを子どもに伝えるために、自ら歌うことの楽しさを感じる。		
授業計画	1. これからの授業についての説明 正しい姿勢での発声法を学ぶ 2. 早口言葉などを使って滑舌をよくし、正しい発声法で歌う練習をする 讃美歌練習 3. 望ましい発声法で、正しい音程がとれるように練習する 讃美歌練習 4. リズム遊びと子どものうたを歌う オペラ鑑賞(DVD) 5. 正しいリズムと音程で手遊びのうた、季節のうたを歌う 6. 正しいリズムと音程で手遊びのうた、季節のうたを歌う 7. うた紙芝居制作の説明 8. 制作したうた紙芝居を演じる 9. ミュージックベルの奏法を学ぶ ミュージックベルの練習 10. 合唱曲を歌う 合唱曲をみんなで選ぶ ミュージックベルの練習 11. 合唱曲を歌う パートに分かれて合唱曲の練習 ミュージックベルの練習 12. 讃美歌(クリスマスのうた)の練習 合唱曲のパート練習・合同練習 ミュージックベルの練習 13. 合唱曲とミュージックベルの発表 14. オペラとミュージカルの違いについて学ぶ DVDにてオペラとミュージカルの視聴 15. 今までの授業の振り返り発表		
評価方法	授業への参加状況(30%) 独唱、紙芝居の実技テスト(70%)		
テキスト *必ず購入	幼児と音楽Aで使用する教科書、プリント		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育教材研究A	授業形式	演習
教員名	吉川和希	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	教材研究の意義を知り、幼児の実態や発達に応じた教材研究の方法について学ぶ。		
授業の概要	・ 幼児の実態と指導計画の関係の中で、教材について考える。 ・ 保育の場面や幼児の姿を想定しながら、エプロンシアターの製作や実践を行う。 ・ 季節を楽しんだり、自然物を取り入れたりできる教材について、制作しながら学ぶ。 ・ 児童文化財について考え、絵本等の楽しさを自分自身が体験する。		
授業の到達目標 (ねらい)	・ 幼児の実態や指導計画との関係の中で教材を捉え、保育の具体的な状況をイメージしながら教材研究をする。 ・ 教材を使って子どもが活動する際の教師の援助、子どもの表現に対する教師の援助について考えながら実践する。 ・ 素材の特性を学びながら、自分自身が楽しんで教材にかかわり、主体的に計画したり制作したりする。		
授業計画	1. オリエンテーション ・ エプロンシアターを通して教材を考える① <計画> 教材研究とは何をするのか、何のためにすることかを考える。 エプロンシアター(パネルシアター、ペープサート等視覚的教材)の意義や、演ずる際の環境構成、教材の活かし方を考える。		
	2. エプロンシアターを通して教材を考える② <演習> エプロンシアター製作を通して、素材や道具と向き合う。		
	3. エプロンシアターを通して教材を考える③ <演習> エプロンシアター製作を通して、素材や道具と向き合う。		
	3. エプロンシアターを通して教材を考える④ <演習> エプロンシアター製作を通して、素材や道具と向き合う。		
	4. エプロンシアターを通して教材を考える⑤ <発表・レポート> エプロンシアター(パネルシアター、ペープサート等視覚的教材)を通して行う幼児理解、教師の援助、評価方法を考える。		
	5. 保育教材と自然① <講義> 自然と関わりながら遊ぶ幼児の姿を知り、自然現象や自然物の特性を知り、遊びや生活への活用について考える。		
	6. 保育教材と自然② <演習> 自然物を使用した造形活動を計画する。		
	7. 保育教材と自然③ <演習> 自然物を使用した造形活動の教材研究を行う。		
	8. 保育教材と自然④ <演習> 自然物を使用して造形活動の教材研究を行う。		
	9. 保育教材と自然⑤ <発表・レポート> 自然物を使用して行なった造形活動について振り返り、生活や遊びとの関連性や連続性を考える。		
	11. 児童文化財 <講義> テキストから学ぶ。		
	12. 絵本と子ども① <演習> 様々な絵本と出会いながら、保育の様々な場面(季節、行事、遊び)との関連性を考え、共有し合う。		
	13. 絵本と子ども② <演習> 様々な絵本と出会いながら、保育の様々な場面(季節、行事、遊び)との関連性を考え、共有し合う。		
	14. まとめ <レポート・作品提出> これまでの授業を振り返り、自分の考えを書き表す。		
	15. 情報通信技術(ICT)を活用した保育実践 <講義> 実際の保育現場でどのように情報通信技術(ICT)が活用されているのかを知る。		
評価方法	指導案・作品提出(40%)、 レポート(20%)、 授業への参加態度(40%)		
テキスト *必ず購入	表現 日々わくわくを生きる子どもの表現(わかば社)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育教材研究B	授業形式	演習
教員名	藤田 佳子	授業区分	選必
年次配当	1年次後期	単位数	1単位
授業表題	保育教材研究B		
授業の概要	子どもの意欲を引き出し、学習する力や人間関係を築くために役立つ保育教材について学ぶ。 なかでもコミュニケーションツールとして日常保育で効果的に活用できる「パネルシアター」の技術を徹底的に身につける。 仕上げとして実践力をつけるために、子どもたちの前でパネルシアター上演を行う。		
授業の到達目標 (ねらい)	・子どもの遊びを豊かに展開していくための保育教材の知識や技術を習得する。 ・パネルシアターの楽しさの魅力を知り、制作とともに演じる力を身につけ、実践力をつける。		
授業計画	1. ガイダンス 保育教材としてのパネルシアター ～パネルシアターの基礎知識(鑑賞・解説)～ 「まんまるさん」制作①		
	2. 課題作品について(上演・解説) 自分の制作する作品選び 「まんまるさん」制作②・仕上げ①		
	3. 「まんまるさん」仕上げ②・練習・発表		
	4. パネルシアターの制作① (作り方・下絵写し・着色1)		
	5. パネルシアターの制作②(着色2)		
	6. パネルシアターの制作③(着色3)		
	7. パネルシアターの制作④(着色4)		
	8. パネルシアターの制作⑤(縁取り・仕掛け①)		
	9. パネルシアターの制作⑥(仕掛け②)		
	10. パネルシアターの演じ方①(演じ方の基礎・練習)		
	11. 幼稚園発表に向けて(発表チーム決め・プログラム決め・グループ練習)		
	12. 幼稚園発表のリハーサル①(グループ練習)		
	13. 幼稚園発表のリハーサル②(プログラムによるグループ通し練習)		
	14. 幼稚園発表のリハーサル③(全体通しリハーサル)		
	15. 幼稚園にて発表および振り返り まとめ		
評価方法	提出した課題(60%)、成果発表(40%)、これらを合わせて評価する。		
テキスト *必ず購入	課題に応じてプリントを配布する。		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育教材研究C	授業形式	演習
教員名	橋本 夏夫	授業区分	選必
年次配当	1年次前期	単位数	1単位
授業表題	保育教材についての基礎的な知識と制作に必要な技術を習得する		
授業の概要	制作のさまざまな実践をしながら、道具や材料の基礎的な知識や扱い方を身につけます。また、つくることの楽しさを感じさらにその楽しさを子どもに伝えられる力を身につけます。		
授業の到達目標 (ねらい)	1.制作に必要な基礎的な技法を身につける。 2.ゆっくりと丁寧な制作ができるようになる。 3.技法を身に付けることで表現力の幅を広げる。 4.制作の楽しさを子どもたちに伝えられるようになる。		
授業計画	1. 授業内容の説明・半期予定と評価方法等・基礎的な技法1.:フロッタージュ (こすりだし技法を通して表現の楽しさを味わう)		
	2. 基礎的な技法2.コラージュ(:フロッタージュを使って季節感のあるコラージュを制作する)		
	3. 基礎的な技法3.:デカルコマニーと糸引き版画(簡単な技法で偶然に出来た色や形を楽しむ)		
	4. 基礎的な技法4.:パチックとスクラッチ(クレヨンと絵の具の性質を知り、応用して制作する)		
	5. 基礎的な技法5.:ステンシルとスパッタリング(多様な技法を知り、応用して制作する)		
	6. 基礎的な技法6.:スタンピングとローリング(多様な技法を知り、応用して制作する)		
	7. 基礎的な技法7.:染め紙とマーブリング(多様な技法を知り、応用して制作する)		
	8. 基礎的な技法のまとめ:材料と道具、糊やハサミの使い方について復習する。(到達度の確認)		
	9. 季節感のある制作: 簡単なウチワの制作(これまでに学んだ基礎的な技法を応用した工作)		
	10. 季節感のある制作: カエルのペープサート(子どもの歌に合わせ動かして遊べる工作)		
	11. カード制作:動きのあるカードを作る(簡単な工夫で表現の幅をひろげる)		
	12. 打ち上げ花火(日本の伝承玩具を身近にある材料で制作する。)(到達度の確認)		
	13. 動くおもちゃ制作:ぶんぶんゴマと登り人形(簡単な仕掛けの動くおもちゃを制作する)		
	14. 紙飛行機を飛ばそう(紙飛行機など飛ばして遊ぶおもちゃを制作する)		
	15. 保育教材研究Cの振り返り(基礎的な技法について、筆記により振り返りを行う)(到達度の確認)		
評価方法	まとめの筆記、作品、配布プリントをまとめを添付したスケッチブックの提出、授業への取り組みと欠席日数 の総合評価		
テキスト *必ず購入	なし・毎回プリントを配布する。		
参考書 *必要に応じ購入	なし・必要に応じてプリントを配布する。		

科目名	乳児保育Ⅰ	授業形式	講義
教員名	初鹿 静江	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題			
授業の概要	「乳児保育Ⅰ」では、乳児保育の意義・目的や役割についての学びをふまえ、現在の多様な乳児保育の場について理解する。また、乳児の育ちを支える生活、環境、遊びについて学習し、発育・発達をふまえた保育者の援助やかかわりについて知識を深める。		
授業の到達目標 (ねらい)	(1) 目的: 乳児保育(3歳未満児)の基本を学習し、一人ひとりを尊重する保育について理解することを目的とする。 (2) 到達目標としては、乳児保育の意義・目的、その役割を学び、多様な場での乳児保育の現状と課題を理解し、乳児の発育・発達をふまえた保育ができるようになる。また、乳児保育における多職種との連携協働を理解できる。 (3) 乳児保育の養護と教育の重要性を理解し、発育・発達をふまえた保育内容について説明できる。		
授業計画	1. ガイダンス 授業の目的、内容、進め方 乳児保育の意義・目的 2. 乳児保育の歴史的変遷 3. 乳児保育の役割と現在の課題 子育て家庭への支援をめぐる社会状況 4. 乳児保育における連携と協働、子育て支援 5. 乳児保育が行われる場 児童福祉施設(保育所・乳児院・児童養護施設等) 6. 0歳児(6か月未満)の発達と保育 ①身体的、精神的、社会的発達の特徴 7. 0歳児(6か月未満)の発達と保育 ②生活と環境、遊び、保育者の支援・かかわり 8. 6か月から1歳未満の発達と保育 ① 身体的、精神的、社会的発達の特徴 9. 6か月から1歳未満の発達と保育 ②生活と環境、遊び、保育者の支援・かかわり 10. 1歳から2歳未満の発達と保育 ①身体的、精神的、社会的発達の特徴 11. 1歳から2歳未満の発達と保育 ②生活と環境、遊び、保育者の支援・かかわり 12. 2歳児の発達と保育 ①身体的、精神的、社会的発達の特徴 13. 2歳児の発達と保育 ②生活環境、遊び、保育者の支援・かかわり 14. 指導計画の作成方法、毎日の健康観察および日誌・連絡帳などの観察記録の書き方 15. まとめ 授業の振り返り		
評価方法	授業への参加態度(25%)・レポート(25%)・試験(50%)		
テキスト *必ず購入	ワークで学ぶ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (株式会社みらい) 菊地篤子[編] 2023年3月1日 初版第2版発行		
参考書 *必要に応じ購入	はじめて学ぶ 乳児保育 (同文書院) 志村聡子[編著]		

科目名	乳児保育Ⅱ	授業形式	演習
教員名	初鹿 静江	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題			
授業の概要	「乳児保育Ⅱ」では、「乳児保育Ⅰ」で学んだ理論を乳児へ援助できるように演習を通じて技術を習得する。各年齢の発達に応じた生活の流れや遊びをととした援助の実践について具体的に学ぶ。また、乳児保育における計画・記録の必要性や保育の振り返りの意義を学ぶ。		
授業の到達目標(ねらい)	(1)目的:乳児期(3歳未満児)の一人ひとりの子どもを尊重した保育の具体的保方法を理解し、実践に活かす力を養うことを目的にする。 (2)到達目標:乳児期の心身の発達を理解し、健やかで安定した成長及び環境、配慮事項、指導計画の作成について理解し実践できる。 (3)学習成果:乳児の発達の特徴を捉え、適切な保育をする力を身につけることができる。保育過程に基づく指導計画を作成し、指導方法を理解し実践に活かすことで保育の質を高めることができる		
授業計画	1. ガイダンス 授業の目的、内容、進め方 乳児保育の基礎的知識の再確認 2. 乳幼児の特徴とその重要性 グループワーク:乳児期に大切にしたいこと 3. 乳児保育の内容と方法 ①生活「食事」と保育環境 グループワーク:食事について年齢ごとの援助方法 4. 乳児保育の内容と方法 ②生活「睡眠」と保育環境 グループワーク:睡眠について年齢ごとの援助方法 5. 乳児保育の内容と方法 ③生活「排泄」と保育環境 グループワーク:排泄について個別の保育方法 6. 乳児保育の内容と方法 ④生活「衣服の着脱」「清潔」と保育環境 グループワーク:衣服の着脱・清潔について年齢ごとの援助方法 7. 乳児保育の内容と方法 ⑤「健康と安全」と保育環境 事例検討:3歳未満児に多いけが、事故、事故防止の方法 8. 乳児の栄養 グループワーク:離乳食の支援の仕方および乳児期の栄養 9. 授乳、オムツ交換<演習> 乳児期の適切な授乳法、感染予防や股関節脱臼予防に留意したオムツ交換の方法 10. 乳児の清潔及び衣服と生活<演習> 沐浴・その他の身体の清潔方法、衣服の着脱等、乳児期の衣服の生活 11. 乳児期の「遊び」と保育者のかかわり方①「玩具・遊具」と保育環境 発達に合わせた遊びの具体的種類や内容 集団での生活における配慮 12. 乳児期の「遊び」と保育者のかかわり方②「絵本」と保育環境 遊びにおける環境構成の重要性 3歳未満児における絵本について 13. 乳児の保育の計画と記録 乳児期の指導計画の特徴と立案の方法、遊びの指導計画の作成 14. 計画をもとにした模擬保育の実践 グループで立てた指導計画をもとに模擬保育を行う。模擬保育の評価・振り返り 15. 乳児保育のまとめ 試験(期末テスト、課題、発表、演習)評価の要点に基づき設定された課題の提出		
評価方法	期末テスト(50%)、課題・発表・演習(50%)		
テキスト	ワークで学ぶ 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (株式会社みらい) 菊地篤子[編] 初版第2刷発行		
参考書 *必要に応じ購入	健やかな育ちを考える 乳児保育Ⅰ・Ⅱ (建帛社) 高内正子 富田和子 梶美保[編著] はじめて学ぶ 乳児保育 (同文書院) 志村聡子[編著] 第4版		

科目名	子どもの健康と安全	授業形式	演習
教員名	畠山 聡子	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	子どもの健康と安全について学習する。		
授業の概要	本授業では、保育における子どもの健康と安全を守るための考え方と対応方法を学ぶ。緊急時対応や危機管理について実践的に学び、保育現場で適切に対応できる力を身につける。		
授業の到達目標 (ねらい)	保育における健康と安全管理の基礎を理解し、実践を想定した判断ができる。 緊急時対応や危機管理について具体的な対応を検討できる。		
授業計画	1. 子どもの健康を守る保育環境とその援助 保育環境を整えるために必要な知識を習得する。身体測定と評価の仕方を理解する。 2. 衛生管理について(演習) 手洗いや嘔吐処理方法を正しく理解し習得する。 3. 事故防止と安全対策① 子どもの事故の特徴を学び、安全対策を考える。 4. 事故防止と安全対策②(演習) 子どもの痙攣時の対応や応急処置方法を習得する。 5. 感染症の予防と対策 子どもがよくかかる感染症の症状や対応を学ぶ。 6. 保育における保健的対応① 保育活動における保健的視点や3歳未満児の発育・発達について学ぶ。 7. 保育における保健的対応②(演習) 3歳未満児の抱っこやオムツの当て方、沐浴方法などを習得する。 8. 子どもの体調不良などへの対応 体調不良時における適切な対応を学ぶ。 9. 緊急時の対応① 救急処置が必要な場合の判断と対応方法を身につける。エビペン・AEDについて理解する。 10. 緊急時の対応②(演習) 心肺蘇生法とAEDの使用方法を習得する。 11. 感染症の対策 感染症の主な症状と対応方法について理解する。 12. 様々な障害のある子どもへの対応、保健活動における連携と協働 医療的ケア児への対応、保健活動における関係機関などとの連携の仕方を理解する。 13. 危機管理と災害への備え 実際に起こり得る事故を想定し、危険を予測する視点を身につける。災害への備えを理解する。 14. 「子どもの健康と安全」のまとめと振り返り 15. 全体の総括		
評価方法	学期末試験、授業内小テスト、提出物、授業態度を総合的に評価する。		
テキスト *必ず購入	※「子どもの保健」と同じ教科書を使用		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	障害児保育	授業形式	演習
教員名	土谷みち子	授業区分	必修
年次配当	2年次通年	単位数	2単位
授業表題	障害のある子どもの保育		
授業の概要	障害児保育の理念及び歴史と現状を理解する。次に、障害のある子どもを早期に発見し、その発達を支援する保育療育の場について整理する。さらに、養育者による障害の受容と家族の困難さ、および障害のある子どもの発達と子育て支援の観点について理解を深める。続けて、障害のある幼児の特別支援について、実践記録を通して学ぶ。以上を受けて、障害のある子どもの困難に対する保育的・教育的対応について、実践的な知識を得る。		
授業の到達目標 (ねらい)	1. 障害のある子どもへの早期対応と保育・療育について基本的に理解する。 2. 家族の困難さ、障害の受容について基礎的に理解する。 3. 障害児保育の実践について理解する。 4. 障害のある子どもの困難に対する保育的・教育的対応について実践的な理解を得る。		
授業計画	1. 第1章: 授業ガイダンス-なぜ障害児保育を学ぶのか	16. 第8章:子ども理解に基づく計画の作成と記録・評価	
	2. 障害のある子どもへの保育	17. 個別の指導計画の作成	
	3. 障害児保育の歴史的変化とインクルージョン保育	18.第9章:個々の発達をうながす生活や遊びの環境	
	4. 第2章:発達の見方と発達の評価	19.外界との関わりが広がらない子どもの理解と援助	
	5. 障害児保育の対象と支援の場	20.(小テスト4)と教材研究	
	6. (小テスト1)と教材研究	21.第11章:職員間の協力関係	
	7. 第5章:発達が気になる子どもの理解と保育	22.第12章:家庭や関係機関との連携	
	8. 身体感覚の偏りと不器用さ	23.第13章:障害のある子どもの早期発見と支援	
	9. 自己有能感を育む	24.第14章:障害のある子どもの就学に向けての支援	
	10. (小テスト2)と教材研究	25.(小テスト5)と教材研究	
	11.第7章:多様な支援を必要とする子どもの理解	26.第15章: 障害のある子どもの発達を支える関連資源の現状と課題	
	12. 外国につながる子どもの理解と保育	27.第16章:支援の場の広がりをつながり	
	13. 子どもの貧困の理解と(小テスト3)	28.障害児保育に関するディスカッション	
	14. 前期 期末試験	29.後期 期末試験	
	15. 前期授業のまとめ	30.後期授業のまとめ	
評価方法	前期・後期にわけて評価する。定期試験(各50%)、授業におけるレポート・小テスト(30%)、アクティブラーニング(20%)		
テキスト *必ず購入	前田泰弘 他(編著) 実践に生かす障害児保育・特別支援教育 萌文書林(2200円)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	特別支援教育の理解と支援	授業形式	演習
教員名	土谷 良巳	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	2単位
授業表題	特別支援教育の理解と支援		
授業の概要	1. 様々な障がいの理解と支援に関する基本的・具体的事項 2. 様々な障がいのある子どもの家庭の困難と障害の受容に関する基本的な事項 3. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念と仕組みに関する基本的な事項 4. 障がいの状態及び／あるいは特別な教育ニーズに応じた教育課程と支援の方法に関する基本的な事項 5. 生涯学習、キャリア教育の観点からの支援に関する基本的な事項		
授業の到達目標 (ねらい)	1. ICFに基づいて障がいの捉え方に関する基礎的理解を得る。 2. 様々な障がいの状態について、その困難と支援方法に関する基礎的理解を得る。 3. 障がいのある子どもの家族の困難、障がいの受容について基礎的理解を得る。 4. インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念と仕組みについて基礎的理解を得る。 5. 障がいの状態及び／あるいは特別な教育ニーズに応じた教育課程と支援の方法について基礎的理解を得る。		
授業計画	1. ガイダンス、共生社会とインクルーシブ教育、特別支援教育の理念、障がいのある子どもの教育の歴史と先 2. ICFによる障がいの理解と子どもの教育ニーズ、障がいの受容と家族への支援 3. 発達障がいのある子どもの理解と特別支援教育の実践(1)ASDを中心に 4. 発達障がいのある子どもの理解と特別支援教育の実践(2)学習障がいを中心に 5. 知的障がいのある子どもの理解と特別支援教育の実践 6. 肢体不自由及び病弱である子どもの理解と特別支援教育の実践 7. 聴覚障がいのある子どもの理解と特別支援教育の実践 8. 視覚障がいのある子どもの理解と特別支援教育の実践 9. 重複障がいのある子どもの理解と特別支援教育の実践(1)重症心身障がいと医療的ケア 10. 重複障がいのある子どもの理解と特別支援教育の実践(2)盲ろう二重障がい 11. 特別支援教育の仕組み:特別支援教育の制度、教育課程と個別の指導計画、個別の支援計画 12. 特別支援教育と障がいのある人への支援:障害者差別解消法、合理的配慮、教育環境の整備 13. 特別支援教育における保育の観点:愛育養護学校(愛育学園)の実践から学ぶ 14. 新しい時代の特別支援教育とその鍵概念:特別な教育ニーズ、重度の障がい児の交流、構造化と情報の保障、子どものイニシアチブ、活動の共有、ネゴシエーション、共創コミュニケーション 15. 授業のまとめ		
評価方法	期末試験(60%)、授業で提示した演習課題への取り組み(20%)、読書課題(20%)から総合的に評価する。 欠席者課題が提出されなかった場合は減点する。		
テキスト *必ず購入	花熊暁・他(編)特別支援教育概論. 建帛社(3,000円+税)		
参考書 *必要に応じ購入	柘植雅義・木舩憲幸編『改訂新版特別支援教育総論』放送大学教育振興会(2,200円+税)		

科目名	社会的養護Ⅱ	授業形式	演習
教員名	松田 雄年	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	1単位
授業表題	社会的養護で施設生活を余儀なくされた子ども達の実情を理解し、彼らを取りまく社会支援の在り方を想像し、さらにそれぞれの施設実習の体験を通して、保育士としての倫理と責務を再認識し、自らの生き方を問う。		
授業の概要	各施設の実習体験や報告(具体的事例)を通じて、そこで生活している子ども達的心情や職員の生活援助の実態を理解し、更に最新の情報を知ること、その将来像や支援者像を模索する。感じる心や伝える力を高め、考えを深める手段として、常に課題を投げ掛け、グループ討議を実施する。また社会的養護を必要とする子どもや親の現状、入所に至る過程とその後の施設養護の実態と支援方法を学び、更に各福祉施設の現状を知ること、その将来性と福祉に携わる援助者としての専門性の理解を深める。個人演習やグループワークを通して異文化交流の中で、立場を理解し、相手を尊重し、支援者として相応しい保育士人材を育成する。		
授業の到達目標 (ねらい)	社会的養護Ⅰを基本に社会的養護全般を理解し、ワークを通して保育士としての倫理観と技術を獲得する。 ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。 ・施設養護及び家庭養護の実際について理解する。 ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。 ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。 ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。		
授業計画	1. 社会的養護Ⅱとは… オリエンテーション(社会的養護の概要 施設の種類 有資格者の仕事 学園が目指す保育士像他)		
	2. 社会的養護における保育士の在り方と倫理観 保育士の価値と倫理(アドボカシー 倫理綱領 社会的責任 保育士に必要な資質 正直さと謙虚さ他)		
	3. 社会的養護に関わる専門職 分業と協業(専門職の役割～心理担当職員、家庭支援専門相談員、里親支援専門相談員、看護師他)		
	4. 記録全般 記録の重要性和書き方(多様な記録等の個人情報保護、自立支援計画書策定他)		
	5. 相談援助の方法と技術① 社会的養護の提供(サバイバー等への配慮、気付き、気配り、気働き等の感性を身に付ける)		
	6. 相談援助の方法と技術② 児童福祉施設の子どもたちの特性と関わり方(児童福祉施設の現状と子ども達への関わり方を理解する)		
	7. 相談援助の方法と技術③ 障害児支援(障害児支援の在り方をグループ討議によって理解する)		
	8. 相談援助の方法と技術④ 自立支援(自立支援の考え方をグループ討議によって理解する)		
	9. 相談援助の方法と技術⑤ 心のケア(心のケアと援助についてグループ討議によって理解する)		
	10. 子どもの虐待防止 人権擁護と苦情解決(人権擁護と苦情解決の権利を守る仕組みから施設を理解する)		
	11. 家庭支援 家庭復帰と家族再統合(家庭支援専門相談員業務から施設養護を理解する)		
	12. 地域連携 関係機関との連携(地域社会や学校他諸機関との関わりの中から社会的養護を理解する)		
	13. チームワークとリーダーシップ 施設の運営管理(施設管理者としての組織と運営及びリーダーシップを理解する)		
	14. 社会的養護の将来像 「都道府県社会養育推進計画」(福祉施設の在り方、施設の有無、今後の将来像を問う～まとめ)		
	15. 保育士としての務め 福祉従事者の資質(職員の役割や支援方法とその姿勢・福祉を志す者としての心構え)		
評価方法	テスト(40%)・レポート(30%)・授業態度及びグループワークへの意欲・貢献度(30%)		
テキスト *必ず購入	特に使用しません。(新聞記事や時事のネットニュース等を印刷して提供する。)		
参考書 *必要に応じ購入	図解で学ぶ保育『社会的養護Ⅰ』原田旬哉・ 松 山宗尚編著 萌文書林(1年時に使用した教科書)		

科目名	子育て支援	授業形式	演習
教員名	鈴木良東	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	1単位
授業表題	子育て支援の理念、内容、方法について理解し、保育士として実践できる力を身につける		
授業の概要	・子育て支援の理念・制度・方法について、統計資料や新聞記事、映像等を活用しながら、討議をし、理解を深める。 ・年に1回程度小テストを行い、到達度を確認する。 ・児童福祉施設職員等をゲストティーチャーとして招き、子育て支援の理解を深める。		
授業の到達目標 (ねらい)	子育て支援の理念・内容・方法について理解し説明できる。 保育士として、子育て支援が実践できるようにする。		
授業計画	1. オリエンテーション 子育て支援とは何か		
	2. 現代社会と子育て支援		
	3. 保護者や家庭の抱える支援ニーズへの気づき		
	4. 子どもの発達と子育て支援		
	5. 相談援助とアセスメント		
	6. 支援計画の作成		
	7. 子ども家庭支援センターと児童相談所の機能		
	8. 保育園、幼稚園、こども園での子育て支援(事例検討①)		
	9. 保育園、幼稚園、こども園での子育て支援(事例検討②)		
	10. 児童館、放課後児童クラブでの子育て支援(事例検討③)		
	11. プレイパークでの子育て支援		
	12. 特に配慮を必要とする子どもと家庭に対する支援		
	13. 子育て支援のためのネットワーク		
	14. 試験とまとめ		
	15. 子育て支援の現状と課題		
評価方法	・授業内での取り組み(積極的な取り組み、発言内容) 10% ・レポート 10% ・試験 80%		
テキスト *必ず購入	子育て支援入門(萌文書林)		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育相談	授業形式	演習
教員名	大澤 千佳子	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	2単位
授業表題	教育相談の基本的理解と実践的援助方法		
授業の概要	子どもがその子らしく豊かに幸せな子ども時代を過ごすためには子ども同士・保護者と子ども・保護者同士・保護者と保育者、それぞれの関係がより良いものになることが求められる。その実現のために、教育相談が果たす役割とその実践を学ぶ。		
授業の到達目標 (ねらい)	様々な保育臨床事例を通して、子ども理解・保護者理解・相談の理論とその方法を学び、相談スキルを獲得する。		
授業計画	1. オリエンテーション		
	2. 保育の場における相談ニーズとカウンセリングマインド		
	3. 子どもの発達理解と相談支援		
	4. 保護者への対応 子育て支援の視点から①		
	5. 保護者への対応 子育て支援の視点から②		
	6. 発達障害や気になる子どもとその保護者への関わり①		
	7. 発達障害や気になる子どもとその保護者への関わり②		
	8. 子ども理解のための発達理論とアプローチ		
	9. 保育場面でのカウンセリング技法の活用①		
	10. 保育場面でのカウンセリング技法の活用②		
	11. 保育の専門性と相談活動		
	12. 園・地域における専門家との連携による相談・支援		
	13. 基礎的対人関係のトレーニング		
	14. 先輩保育士に聞く		
	15. 試験とまとめ		
評価方法	試験の結果、授業に対する姿勢、課題提出とその内容		
テキスト *必ず購入	自主教材(教科書の購入はない)		
参考書 *必要に応じ購入	なし		

科 目 名	保育実習 I a	授業形式	実習
教 員 名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単 位 数	2単位
授業表題	観察・参加実習を通して、保育園での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して乳幼児の生活及び保育への理解を深める。また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る。(主に観察・参加実習)		
授業の到達目標 (ねらい)	・保育園の一日の流れを体験的に理解する。 ・保育園での保育者の仕事を理解する。 ・さまざまな場面における子どもの姿を知る。		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4	19.	
	5	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%		
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）		
参考書 *必要に応じ購入			

58

科 目 名	保育実習Ⅰb		授業形式	実習
教 員 名	専任教員		授業区分	必修
年次配当	1年次後期		単 位 数	2単位
授業表題	参加実習を通して、施設における保育者の仕事、利用児者の姿を学ぶ。			
授業の概要	学校で指定した児童福祉施設において、2週間の実習を行なう。 児童養護施設、乳児院、福祉型児童発達センター、医療型障害児入所施設などにおける実習。			
授業の到達目標 (ねらい)	・各児童福祉施設の内容・機能を体験を通して理解する。 ・保育者の職務内容および役割、他職種とのチームワーク等を把握する。 ・保育、養護の知識・技能を実践し、要養護の状況に置かれている子どもたちへの理解を図る。			
授業計画	1.	16.		
	2.	17.		
	3.	18.		
	4.	19.		
	5.	20.		
	6.	21.		
	7.	22.		
	8.	23.		
	9.	24.		
	10.	25.		
	11.	26.		
	12.	27.		
	13.	28.		
	14.	29.		
	15.	30.		
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%			
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）			
参考書 *必要に応じ購入				

59

科目名	保育実習指導ⅠaⅠb	授業形式	演習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次担当	1年次後期	単位数	2単位
授業表題	観察・参加実習を通して、保育園・施設での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習について、事前の授業においては、保育所・児童福祉施設についての理解を図り、その上で実習の目的・目標・方法を明らかにする。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。		
授業の到達目標(ねらい)	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。		
授業計画	1. オリエンテーション:保育所保育について 保育実習Ⅰaの位置付け、目標・内容を理解する。		
	2. 子どもの発達とデイリープログラムについて 乳児も含む子どもの発達と、それに応じたデイリープログラムについて学ぶ。		
	3. 参加実習の記録の意義・書き方について実習園ORについて 参加実習の実際とそのポイント・留意事項を学ぶ。参加実習における記録の意義と具体的な書き方の基本を学ぶ。実習園について知る。		
	4. 実習園ORのふりかえり 実習園ORをふりかえり、再度実習内容を確認し、記録を作成する。		
	5. 指導計画と部分実習について 部分実習の実習案の作成について、指導計画と実習案、実践の関係を理解し、実際に作成する。		
	6. 指導計画と部分実習について実習中・実習後の諸作成した注意部分 実習案を見直すことを通して、指導計画と実習案、実践の関係についての理解を深める。		
	7. 実習のふりかえり グループで保育園実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。		
	8. 共通のテーマでのディスカッション:施設実習の概要について 保育実習Ⅰaの振り返りから共通のテーマを設定し、グループディスカッションを行う。施設実習における実習の目標・内容の理解を図る。		
	9. 施設の種別の理解:施設見学について 各施設の目的・対象・職員構成・養護や療育の実際などについて、調べ学習を行う。施設実習の事前学習としての施設見学の目的・概要を知る。		
	10. 施設見学後発表 施設ごとに見学した具体的な内容を発表し、種別の理解を深める。		
	11. 実習施設についての学習 実際に自分が実習を行う施設について、調べ学習を行い、目的・対象・職員構成・生活の実際など、概要を知る。		
	12. 実習施設についてのディスカッション 個別に調べ学習した資料をもとにディスカッションを行い、実習施設についての理解を深めるとともに、実習課題を考えあい、実習に臨む際の不安を解消する。		
	13. 実習日誌・部分実習について 実習日誌の基本的な書き方を学ぶ。 実習のねらいや内容に合わせて書き方を変えていく必要がある場合もあることを学ぶ。 部分実習の基本的な考え方と、部分実習指導案の立て方を学び、実習を行う施設で行うにふさわしい活動を考え、指導案を作成する。		
	14. 直前学習 実習中によく出会う問題とその対応方法について学ぶ。		
	15. 実習のふりかえり グループで施設実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。		
評価方法	事前指導[出席参加状況20%、全提出物・全レポート(指導案、事前訪問報告書)30%] 事後指導[出席参加状況20%、事後報告書、ふりかえりのディスカッション等への参加30%] ※期限の遵守		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

科 目 名	保育実習Ⅱ		授業形式	実習
教 員 名	専任教員		授業区分	選必
年次配当	2年次後期		単 位 数	2単位
授業表題	保育園での保育実践とその省察に取り組み、保育の専門職としての意識を培う			
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して乳幼児の生活及び保育への理解を深める。また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る。 (主に参加・責任実習)			
授業の到達目標 (ねらい)	・子どもの個々の育ちを理解する。 ・保育実践を通して保育技術を習得する。 ・保育園の保育者に求められる社会的役割についての理解を深める。			
授業計画	1.	16.		
	2.	17.		
	3.	18.		
	4.	19.		
	5.	20.		
	6.	21.		
	7.	22.		
	8.	23.		
	9.	24.		
	10.	25.		
	11.	26.		
	12.	27.		
	13.	28.		
	14.	29.		
	15.	30.		
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%			
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）			
参考書 *必要に応じ購入				

61

科目名	保育実習Ⅲ	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	選必
年次配当	2年次前期	単位数	2単位
授業表題	施設での支援の実践と省察に取り組み、保育の専門職としての意識を培う。		
授業の概要	保育実習Ⅰbで学んだ児童福祉施設一般についての概括的理解を前提として、学校で指定した児童福祉施設において、2週間の実習を行なう。		
授業の到達目標 (ねらい)	0		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園・施設による評価60%		
テキスト *必ず購入	『幼稚園教育要領解説』文部科学省（フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』厚生労働省（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省（フレーベル館）		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	保育実習指導ⅡⅢ	授業形式	演習
教員名	専任教員	授業区分	必修
	2年次通年	単位数	1単位
授業表題	観察・参加実習を通して、保育園での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習について、事前の授業においては、保育所・児童福祉施設についての理解を図り、その上で実習の目的・目標・方法を明らかにする。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。		
授業の到達目標 (ねらい)	保育所及び保育所以外の児童福祉施設の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。 なお、二年次の保育実習は、保育実習Ⅱと保育実習Ⅲの選択となる。		
授業計画	1.オリエンテーション 保育実習Ⅱの位置付け、目標・内容を理解する。	16.オリエンテーション 保育実習Ⅲの位置付け、目標・内容を理解する。	
	2.記録の意義・書き方について 参加実習における記録の意義と、具体的な書き方の基本を学ぶ。	17.施設の種別の理解 調べ学習を通して、実習を行う施設の種別の概要の理解を図る。	
	3.指導計画と責任実習について① 責任実習とは何かについて、理解する。責任実習の実習案の作成にあたり、留意すべき点について学ぶ。	18.記録の意義・書き方について 施設実習における記録の意義と、具体的な書き方の基本を学ぶ。	
	4.指導計画と責任実習について② 責任実習案を作成・提出・見直し。	19.支援計画と責任実習について 責任実習とは何かについて、理解する。責任実習の指導案の作成にあたり、留意すべき点について学ぶ。	
	5.保育園職員のチームワークと社会的役割について 保育園で働くさまざまな職員の仕事と、チームワークについて学ぶ。	20.施設職員のチームワークと社会的役割について 施設で働くさまざまな職員の仕事と、チームワークについて学ぶ。	
	6.保護者支援・地域支援の実践について 子どもの保護者との具体的なコミュニケーションのあり方について知ることを通して、保護者支援の実践を学ぶ。	21.保護者支援・地域支援の実践について 利用児者の保護者との具体的なコミュニケーションのあり方について知ることを通して、保護者支援の実践を学ぶ。	
	7.実習園ORについて 実習園ORの意味と、留意事項の確認。	22.実習施設ORについて 実習園ORの意味と、留意事項の確認。	
	8.実習園ORのふりかえり 実習園ORをふりかえり、再度実習内容を確認し、記録を作成する。	23.実習施設ORのふりかえり 実習園ORをふりかえり、再度実習内容を確認し、記録を作成する。	
	9.実習園ORをふまえた事前準備① 実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。	24.実習園ORをふまえた実習準備 実習先でどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習施設を想定して責任実習指導案を作成する。	
	10.実習園ORをふまえた事前準備② 実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。	25.施設実習についてのまとめと実習課題 実習施設についての学習のまとめをし、実習課題を明確にする。	
	11.実習中・実習後の諸注意 実習中、実習後の留意事項、評価観点の確認。	26.実習中・実習後の諸注意 実習中、実習後の留意事項、評価観点の確認。	
	12.実習のふりかえり グループで本実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。	27.実習のふりかえり グループで本実習の内容のふりかえりを行い、反省点や今後の課題を明確化する。	
	13.共通のテーマでのディスカッション グループディスカッションを行う。	28.共通のテーマでのディスカッション グループディスカッションを行う。	
	14.グループ発表 話し合われたことの発表。	29.グループ発表 話し合われたことの発表。	
	15.まとめ 実習前、実習中、実習後を通じた学習の総括。	30.まとめ 実習前、実習中、実習後を通じた学習の総括。	
評価方法	事前指導[出席参加状況30%、全提出物・全レポート(指導案、事前訪問報告書)20%] 事後指導[出席参加状況30%、事後報告書、ふりかえりのディスカッション等への参加20%] ※期限の遵守		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

63

科 目 名	教育実習 I	授業形式	実習
教 員 名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	1年次後期	単 位 数	1 単位
授業表題	見学・観察実習を通して幼稚園での保育者の仕事・子どもの姿を学ぶ。		
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して幼児の生活及び保育への理解を深める。 また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る(見学観察実習)。		
授業の到達目標 (ねらい)	・幼稚園の一日の流れを体験的に理解する。 ・幼稚園での保育者の仕事を理解する。 ・さまざまな場面における子どもの姿を知る。		
授業計画	1.	16.	
	2.	17.	
	3.	18.	
	4.	19.	
	5.	20.	
	6.	21.	
	7.	22.	
	8.	23.	
	9.	24.	
	10.	25.	
	11.	26.	
	12.	27.	
	13.	28.	
	14.	29.	
	15.	30.	
評価方法	実習日誌40%、実習園による評価60%		
テキスト ＊必ず購入			
参 考 書 ＊必要に応じ購入			

64

科目名	教育実習指導 I	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	1年次通年	単位数	0.5 単位
授業表題	実習の意義・心得を学び、専門職業人である保育者としての意識を培う		
授業の概要	幼稚園の実習について、事前の授業においては、実習の目的・目標・方法を明らかにし、幼稚園についての理解を図る。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。事後の授業においては、主に実習での体験の振り返りを通して、実習での学びを確認し、学生一人ひとりが自己課題の明確化を試みる。方法としては、クラス全体での授業、グループでの演習、事前・事後指導のための個人面接及び実習中の訪問指導を行う。また、プラクティカルスタディ、宿泊研修、フレンドリーウィークについても実習事前学習として位置づける。		
授業の到達目標 (ねらい)	幼稚園の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。		
授業計画	1. オリエンテーション 2年間の実習の流れと、各実習の目的、内容を理解する。		
	2. 幼稚園・保育園・施設の概要 実習を行う幼稚園・保育園・施設について、それぞれの目的、対象、保育者など、概要について学び、違いを理解する。		
	3. 本学園の幼稚園・保育園について 幼稚園、保育園の目的、生活、保育者の役割などについて学ぶために、モデルとして本学園の幼稚園、保育園についての概要を知る。		
	4. 園の環境見学① 幼稚園の環境を見学し、環境構成の工夫や子ども達が普段どのように過ごしているかを学ぶ。		
	5. 園の環境見学② 保育園の環境を見学し、環境構成の工夫や子ども達が普段どのように過ごしているかを学ぶ。		
	6. 保育者として必要な資質について 保育現場に入る際、留意しなければならないことを考える。特に、実習に対する目的意識、実習態度の基本について学ぶ。また、保育者自身の生活習慣がこどものモデルになることに鑑み、学生自身が自分の生活リズム、生活習慣、食習慣などの日常生活を振り返り、保育者になるにあたって、改善点を考える。		
	7. 見学・観察実習について 園の環境見学をふまえ、見学・観察実習の目的と視点を学ぶ。		
	8. こどもへの援助の実際 学園内の幼稚園、保育園に2日間の保育体験(フレンドリーウィーク)に入り、幼稚園の一日の流れや保育者の動き、子どもへの援助の実際を学ぶ。		
	9. 実習園オリエンテーションについて 実習園オリエンテーションの意義・概要を知り、オリエンテーションを受ける際の留意事項を確認する。また、実習園オリエンテーション時の記録のとり方を学ぶ。		
	10. 実習日誌の書き方について ねらいの立て方、記録のとり方、考察や反省の書き方など、実習日誌の記入のし方の基本を学ぶ。一定時間こどもを観察した記録を書く。		
	11. 部分実習について 実習中に行う部分実習の意義・概要を知り、部分実習指導案の書き方について学ぶ。また、部分実習として行う活動を調べ、実際に指導案を作成する。		
	12. 実習日誌・部分実習のまとめ 実際に学生が書いた記録や指導案をもとに、記録や立案の際、どのようなことに留意したらよいかを学ぶ。		
	13. 実習期の保育、子どもの姿について 幼稚園実習の時期に予想される子どもの姿、園生活の概要を知る。		
	14. 実習直前指導 実習に臨む心構え、持ち物、学校や園との連絡方法、最終日の日誌の提出など、実習中、実習後の留意事項の確認を行う。		
	15. 実習のふりかえり 実習報告書の作成と、実習のふりかえりのディスカッションを行い、学んだことを共有し、今後の課題を明確にする。		
評価方法	出席参加状況、全提出物・全レポート(期限の厳守)、グループディスカッションへの参加状況、フレンドリーウィーク、プラクティカルスタディへの取り組み状況		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

科 目 名	教育実習Ⅱ		授業形式	実習
教 員 名	専任教員		授業区分	必修
年次配当	2年次前期		単 位 数	3 単位
授業表題	幼稚園での教育実践とその省察に取り組み、保育専門職としての意識・態度を培う			
授業の概要	保育の実習生として子どもの生活の場に身を置き、そこでの体験を通して幼児の生活及び保育への理解を深める。 また、実習での実践と省察を経て、学生一人ひとりが保育者としてのあり方を探る(主に参加・責任実習)。			
授業の到達目標 (ねらい)	・子どもの個々の育ちを理解する。 ・保育実践を通して保育技術を習得する。 ・幼稚園の保育者に求められる社会的役割について理解を深める。			
授業計画	1.	16.		
	2.	17.		
	3.	18.		
	4.	19.		
	5.	20.		
	6.	21.		
	7.	22.		
	8.	23.		
	9.	24.		
	10.	25.		
	11.	26.		
	12.	27.		
	13.	28.		
	14.	29.		
	15.	30.		
評価方法	実習日誌、指導案40%、実習園による評価60%			
テキスト ＊必ず購入				
参 考 書 ＊必要に応じ購入				

66

科目名	教育実習指導Ⅱ	授業形式	実習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	2年次前期	単位数	0.5単位
授業表題	「保育者」としての基礎基本を培う		
授業の概要	幼稚園の実習について、事前の授業においては、実習の目的・目標・方法を明らかにし、幼稚園についての理解を図る。また、記録や計画、保育者として求められる心得について学習する。事後の授業においては、主に実習での体験の振り返りを通して、実習での学びを確認し、学生一人ひとりが自己課題の明確化を試みる。方法としては、クラス全体での授業、グループでの演習、事前・事後指導のための個人面接及び実習中の訪問指導を行う。また教育実習指導Ⅰと同様に宿泊研修も実習事前学習として位置づける。		
授業の到達目標 (ねらい)	幼稚園の実習の事前・事後指導を通して、実習への知識や意欲を高めるとともに、保育者として必要な態度や力を養うことを目的とする。		
授業計画	1. オリエンテーション 2年間の実習の中での、本実習の位置づけ、目標・内容を理解する。		
	2. 記録の意義・書き方について 参加実習における記録の意義と、具体的な書き方について考える。		
	3. 指導計画と責任実習について① 責任実習とは何かについて、保育計画の流れの中で理解する。責任実習の実習案の作成について学ぶ。		
	4. 指導計画と責任実習について② 作成した責任実習案を見直すことを通して、保育計画と実習案、実践の関係への理解を深める。		
	5. 実習園ORについて 実習園について知る。実習園ORの意味と、留意事項の確認を行う。		
	6. 実習園ORのふりかえり 再度実習内容を確認し、記録を作成する。		
	7. 実習園ORをふまえた実習準備① 自分が実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。		
	8. 実習園ORをふまえた実習準備② 自分が実習を行うクラスでどのような活動を行うのが望ましいかを考える。実習クラスを想定して責任実習指導案を作成する。		
	9. 幼稚園の社会的役割について 幼稚園における職員の連携とその意味、子育て支援について学ぶ。		
	10. 保護者支援について 子どもの保護者との具体的なコミュニケーションのありようについて学ぶ。		
	11. 実習中・実習後の諸注意 実習中、実習後の留意事項、評価観点の確認。		
	12. 実習のふりかえり 実習報告書を作成し、個別に反省点や今後の課題を明確化する。		
	13. 共通のテーマでのディスカッション 共通のテーマを設定し、グループディスカッションを行う。		
	14. グループ発表 グループディスカッションで話し合われたことの発表。発表しあうことを通して、実習での学びを整理し、今後の課題をさらに明確化する。		
	15. まとめ 実習前、実習中、実習後を通した学習の総括。		
評価方法	事前指導[出席参加状況30%、全提出物・全レポート(指導案、事前訪問報告書)20%] 事後指導[出席参加状況30%、事後報告書、ふりかえりのディスカッション等への参加20%] ※期限の厳守		
テキスト *必ず購入	『幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド』わかば社 『実習の記録と指導案』ひかりのくに株式会社 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			

科目名	教育保育実践演習	授業形式	演習
教員名	専任教員	授業区分	必修
年次配当	2年次後期	単位数	2単位
授業表題	2年間の学びを集大成し、自らの保育者像を深める		
授業の概要	1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 2. 社会性や対人関係能力に関する事項 3. 幼児理解やクラス運営に関する事項 4. 保育内容の指導力に関する事項 について、理論と実践の統合が図られるようロールプレイング(役割演技)や保育の事例研究、模擬保育の実践、指導案作成や実践記録の作成、それを省察する観点からのグループ討議などを行う(1回180分授業)。		
授業の到達目標(ねらい)	幼稚園教諭・保育士の資格を取得するために必要な授業科目の履修やそれ以外の様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が保育者としての資質能力としてどのように統合され、形成されたかについて、2年間の履修カルテをもとに自己の課題を確認し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図り、保育者としての歩みを円滑にスタートさせることができるようになることをねらいとする。		
授業計画	1. オリエンテーション「教職実習演習」の学びの目的を理解する これまでの学校生活の中で身につけた資質能力が、保育に携わるものとして、最小限必要な資質・能力として有機的に統合され形成されているかについて最終確認する。		
	2. これまでの学びを現場に生かすため(1) 保育者(幼稚園教諭・保育士)の使命感・責任感・教育的愛情に関する事項を確認する。		
	3. これまでの学びを現場に生かすため(2) 教職の意義、保育者(幼稚園教諭・保育士)として教職の意義役割。職務内容・子どもに対する責任等について体得したことの確認。		
	4. コミュニケーション能力を身につける(1) 対人関係能力、組織の一員としての自覚、保護者や地域関係者との人間関係の構築等について身につけていることの確認。		
	5. コミュニケーション能力を身につける(2) 十分な社会性を身につけているかの確認。		
	6. 子ども理解の確立 乳幼児理解(身体や心理)について、ポイントを整理する。		
	7. 幼稚園・保育園の園長・主任の話から保育現場の今を知る。		
	8. 幼稚園・保育園の園長・主任の話から保育現場の今を知る。		
	9. 幼稚園・保育園の園長・主任の話から保育現場の今を知る。		
	10. 記録作成 討論・評価 幼児の教育現場の見学記録を書く。見学記録の発表・グループ討論。		
	11. 幼稚園教育要領における重点課題の確認 具体期な場面を想定して指導案を作成し、演習をする。		
	12. 保育指針の改定における重点課題の確認 養護機能と教育機能を明確にして、一体として保育を進める。		
	13. 模擬保育の実践と評価 作成した指導案に基づいて模擬保育をする。		
	14. 保育の質を改善するために留意すること ① 保育のあり方の改善、保育の改定点を中心に保育を見直す。 ② 指導の充実のために、保育課程教育課程を作成する。		
	15. まとめ		
評価方法	教職履修カルテ、レポート、授業における態度・意欲から総合的に評価する		
テキスト *必ず購入	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領(および解説書)』 文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針(および解説書)』 厚生労働省 フレーベル館		
参考書 *必要に応じ購入			